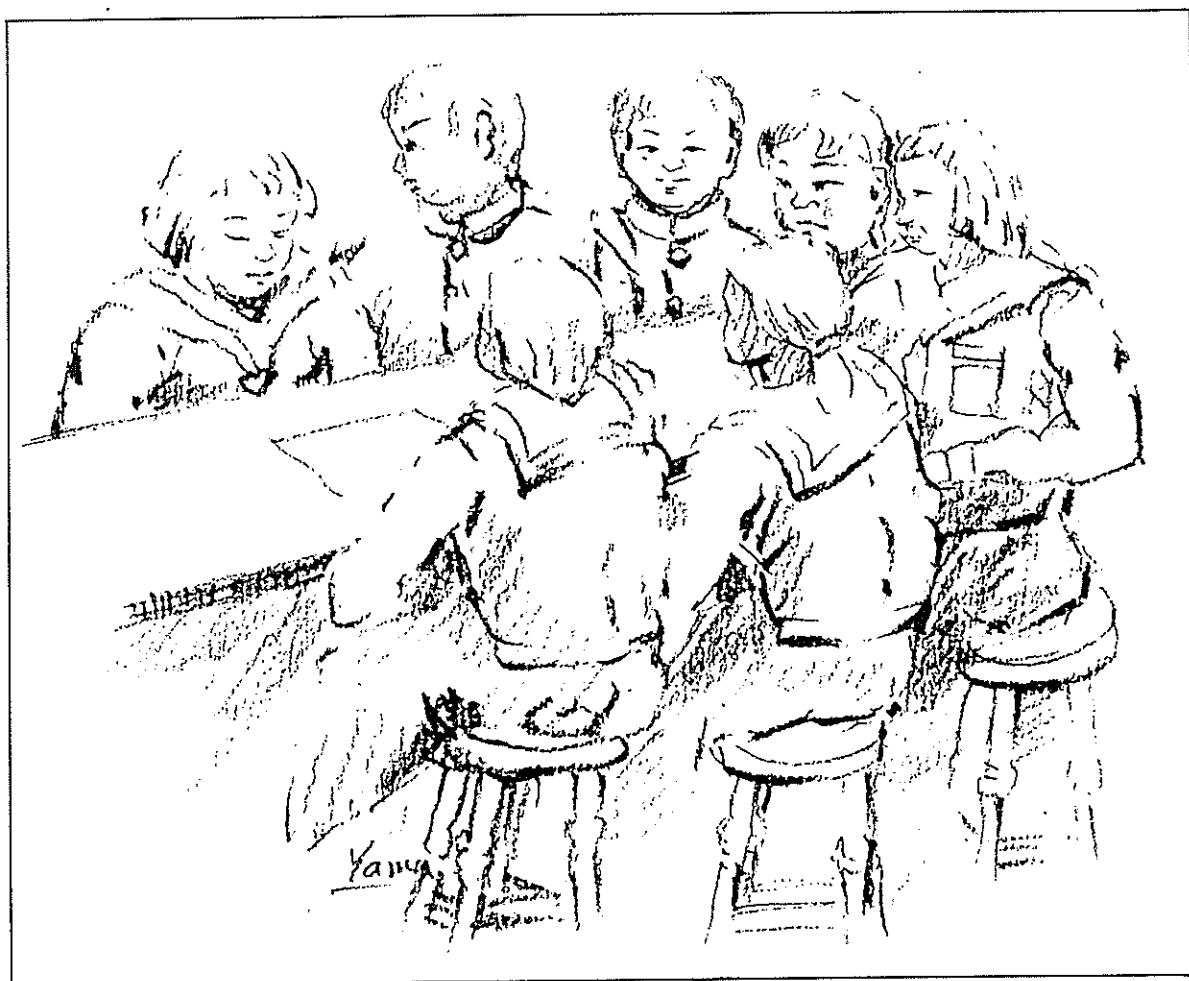


—望ましい家庭教育をめざして—

福岡県における中学生の意識・行動と 父親・母親の養育態度・行動の実態 (その2)

—昭和58年度 家庭教育総合セミナー報告書—



福岡県教育委員会

は　じ　め　に

家庭は子どもたちの生活基盤であり、子どもの人格形成や基本的な生活習慣を培う場として重要な役割を担っていると言えます。

本来、家庭で行われる教育はあくまでも私的な営みであり、家庭の実情に即して行われるべきものですが、福岡県教育委員会では、家庭教育は子どもの発達段階に応じ、その時期に適した教育が行われなければ効果があがらないという基本的立場にたち、家庭教育の在り方についての研修会や学習資料を提供する事業を展開しています。

その一つとして、県教育委員会では、昭和54年度から5か年計画で「家庭教育総合セミナー事業」を実施し、家庭教育にかかわる問題を具体的・実証的に調査研究をすすめてきました。

昭和54年度は、県内各地で実施された家庭教育に関する調査の分析、55年度は、県下19小学校の児童をもつ父親・母親を対象に「子どものしつけに関するアンケート調査」を実施し、その中間報告書を作成しました。56年度は55年度にひきつづきその最終報告書の作成及びその結果をもとに「小学生をもつ一あなたの子育てのために」という家庭教育に関する啓発のための小冊子を作成して、県下市町村教育委員会及び小・中学校に配布しました。

57年度は、県下6中学校の生徒及びその父親・母親を対象に「中学生の生活実態のアンケート調査」及び「中学生をもつ父親・母親のしつけに関するアンケート調査」を実施し、「中学生の意識・行動の実態」と「父親・母親の養育態度・行動の実態」を中心に資料を作成しました。

本年度は、ひきつづき57年度の調査結果をもとに「子どもの行動と父親・母親の養育行動の類型」との関連性を中心に本資料を作成しました。

今後の望ましい家庭教育の在り方については、あらゆる場や機会を捉えて十分討議される必要があると思われますが、その際の研究資料としてこの冊子が活用されることを願っています。

最後に、この調査に御協力いただいた学校や父母の皆さんに心から感謝申し上げるとともに、この事業をすすめるにあたって、御多忙中にもかかわらず、終始熱心に御指導・御助言をいただいた家庭教育総合セミナー事業企画研究委員並びに関係者の方がたに厚くお礼申し上げます。

昭和59年 3 月

福岡県教育庁指導第二部社会教育課

課 長 光 安 常 喜

目 次

はじめに

I 調査の概要

1. 調査の目的	3
2. 調査の方法	5
3. 分析の基本的な視点	8

II 分析の結果

1. 養育行動の類型化	9
2. 子どもの行動と父親の養育行動の類型	14
(1) 父親の養育態度・行動の類型の特徴	14
(2) 子どもの問題行動と父親の養育行動の類型	16
(3) 問題行動を経験した子どもの父親と問題行動を経験していない子ども の父親との養育態度・行動の比較についての事例研究	21
3. 子どもの行動と母親の養育行動の類型	26
(1) 母親の養育態度・行動の類型の特徴	26
(2) 子どもの問題行動と母親の養育行動の類型	28
(3) 問題行動を経験した子どもの母親と問題行動を経験していない子ども の母親との養育態度・行動の比較	31
4. ま と め	39

III 結論と今後の課題

40

IV 家庭教育総合セミナー事業の概要

44

資 料

- ・ 本調査で使用した質問紙

※ 表紙絵 柏屋郡新宮町立立花小学校長 山 野 巖

I 調査の概要

1 調査の目的

今、子どもは「大きく変わってきている」と言われるし、親や教師の立場からすれば「子どもがわからなくなった」と言う声も聞かれる。少年の非行は戦後第三のピークとも言われ、数的増加のほかに質的な変化を見逃すことができない。弱い者いじめや、校内暴力、シンナー・覚醒剤の使用などからくる非行、また非行の集団化及び区悪化、さらに万引き、家出などの女子の非行の増加などである。

また、最近の少年の非行は、中学生を中心に多く発生しており、刑法犯少年の約6割を占め非行の主役となっている。過去は貧しいが故の盗みが多かったのが、最近では遊びの延長のように万引きや乗り物盗を行い、安易に怠学、家出をするなど少年全般に規範意識が薄れてきていることにも大きな問題がある。このような反社会的な行動のほか、孤立化したり、家庭内暴力、登校拒否など非社会的な行動をする生徒が増加していることも憂慮されていることである。

全般的に現代っ子は体も大きくなり、明るく伸びのびしているように見えるが、反面精神的に自主性（やる気）がない、耐性（がまんすべきことにがまんできる）がない、集中力・根気がない、思いやりがないなど心の豊かさや厳しさに欠ける面がでており、このような基本的な能力・態度の低下が非行の前提をなしていると考えられる。

こうした状況が生みだされた原因は、現実の家庭・学校・社会などおそろくさまざまな要因がからみあっていき起こされると考えられるが、その中で最も重要な原因の一つとして親の養育態度・行動、つまり子どもに対する日頃の親の接し方、そこから生まれる親子の愛情、家族の結びつき、しつけなどによって形成されるパーソナリティによるところが大である。

このような意味で昭和55年に調査報告した「小学生をもつ父親・母親の養育態度・行動の実態」では親の養育態度として、明らかに過保護と呼ぶべき傾向が存在していた。それをまとめてみると、

- (1) 子どもが本来自分でできることあるいは自分でなすべきことを親が先取りして世話する傾向が強い。
- (2) 安易に物を与える傾向が強い。
- (3) 子どもの要求を安易に受け入れる傾向が強い。
- (4) しつけのために叱ったり、注意したりする親は必ずしも少なくないが、その叱り方に一貫性がない傾向がある。
- (5) 手伝いをあまりさせていない。

その中で、注意すべき二つの傾向が明らかになつている。その第一は「無意識の過保護」と

も言うべき傾向が存在しているということである。すなわち、極めて多くの親が過保護の傾向にあるにもかかわらず、本人の意識や考え方の中で、自分は過保護であることに気がついていないということである。

・第二の傾向はしつけの中で、「一部放任」が続いてきたということである。すなわち、一部では子どもの欲求や行為を先取りして、親がすべてをやってしまうという傾向があると同時に、一方では親が当然子どもに教えたり、訓練しておくべきことが教えられないまま放置されてきているということである。

子どもの基本的生活習慣が身につけていないという状況は、子どもが自分でできることを親がやってしまうから、子どもに学ぶ機会が与えられなかったという面と、親が教える努力を怠って放任してきた面の二つの側面が存在するということである。一言で言えば「放任的過保護」というべき傾向で、親の過保護、過干渉の養育行動や態度がある面では最少限のしつけすら怠るという「一部放任」の態度と抱きあわせになったとき、子ども達は学校生活、社会生活を営んでいく上での基本的条件すらも身につけられないまま大きくなってきていると判断できる。このような実態をもとに、57年度は「中学生の意識・行動と父親・母親の養育態度・行動の実態」の調査を行った。

本調査の目的の第一は、中学生は自らの生活をどのように行い、またどのように意識しているか、この点を明らかにすることである。

第二の目的は、中学生をもつ父親・母親の養育行動と生活実態を明らかにすることである。

この第一、二については昨年度「福岡県における中学生の意識・行動と父親・母親の養育態度・行動の実態（その1）」として報告したところでありその主なものは次のとおりであった。

◎ 子どもについてみると

- (1) 子どもの大半は家庭生活、学校生活に満足している。
- (2) 勉強や成績及び進路について悩む子どもは学年が進むにつれて増加の傾向にある。
- (3) 子どもに対する親のしつけは、勉強や成績のことに集中する傾向がある。
- (4) 手伝いはかなりしているが、女の子の方がよく手伝いをしている。
- (5) 学年が進むにつれて勉強時間が長くなり、自由時間の過ごし方はあまり活動的ではない。
- (6) 非行・問題行動の発生率は学年が進むにつれ高くなっている。

◎ 親についてみると

- (1) 子どもの成績については、親の態度は極めて冷静かつ客観的である。
- (2) 性教育については、大半の親がこの種の問題を回避したり無視する傾向がある。
- (3) 子どもの自立性や忍耐力については、3割の親が「ない」と認め、特に、母親の評価が厳しい。
- (4) 大方の親は、子どもに対して自信を持って接しているとしながら、約4割の親が子どもの気

持ちがわからないと答えている。

(5) 親のいきがいの第1位は子ども、第2位は仕事である。

(6) しつけについてはかなり自信は持っているものの、甘いと考える親と甘くないと考える親は半々である。

(7) 子どもについての悩みの第1位は成績や進学のことである。学年が進むにつれ全体的に親の悩みや心配の種が増していく傾向である。

第三の目的は、子どもの生活の実態を親によるしつけとの関連性を探り、望ましい親のあり方を具体的に明らかにしていくことである。子どもは本来すばらしい可能性を持つており、その可能性が望ましい形で実現するためには、親の子どもへのかかわり方、すなわち養育行動と親の子どもに示す生活態度が適切なものでなければならない。そこで、今年度は特にこの点に視点をおき、子どもの生活行動の実態と親の養育態度・行動との関連性を検討してみることにする。

2 調査の方法

(1) 調査対象

本調査は福岡県下6地区、6校の中学生とその両親1,310組（各学校とも各学年2クラス）を対象に行なった。回収数は1,303組で回収率は99%であった。但し、実際の集計にあたっては、生徒、父親（父親に代る者も含む）、母親（母親に代わる者も含む）の三者の一部が欠けているサンプルまた記入者が指定された者（父親ないし母親、またそれに代わる者）以外か、不明なものは除外した。したがって有効サンプル数は、1,139組となり、その有効率は87.4%であった。

なお、サンプルの内訳を生徒の学年、性別、きょうだいの構成、きょうだいの中での位置、居住地域で分類すると表1.2.3.4.5のとおりであった。

表1 学年別サンプル数

区分 \ 学年	1 年	2 年	3 年	合 計
生 徒	346	385	408	1,139
父 親	346	385	408	1,139
母 親	346	385	408	1,139
合 計	1,038	1,155	1,224	3,417

表2 男女別サンプル

区分 \ 性別	男生徒	女生徒	合 計
生 徒	569	570	1,139
父 親	569	570	1,139
母 親	569	570	1,139
合 計	1,707	1,710	3,417

表3 きょうだい構成別サンプル数

区分 \ きょうだい数	1 人	2 人	3 人	4 人	5 人	6 人	7 人	合 計
生 徒	87	555	382	90	17	7	1	1,139
父 親	87	555	382	90	17	7	1	1,139
母 親	87	555	382	90	17	7	1	1,139
合 計	267	1,665	1,146	270	51	21	3	3,417

表4 きょうだいの中での順位別サンプル

区分 \ 順位	長 子	二 子	三 子	四 子	五 子	六 子	合 計
生 徒	533	433	149	22	4	1	1,139
父 親	533	433	149	22	4	1	1,139
母 親	533	433	149	22	4	1	1,139
合 計	1,590	1,299	447	66	12	3	3,417

表5 居住地域別サンプル数

区分 \ 地域	都市住宅地	中都市新興団地	農 村	旧産炭地	過 疎 地	工業地帯	合 計
生 徒	217	185	165	185	200	187	1,139
父 親	217	185	165	185	200	187	1,139
母 親	217	185	165	185	200	187	1,139
合 計	651	555	495	555	600	561	3,417

(2) 調査の方法

本調査は質問総数 55 項目からなる質問紙「中学生の生活実態についてのアンケート」(中学生用)と質問総数 41 項目からなる「中学生のしつけについてのアンケート」(親用)によって行った。

なお、親用には父親用と母親用の 2 種類を使用した。質問の構成と内容は全く同じにした。またこれらの質問紙の構成は次のとおりとした。

① 「中学生の生活実態についてのアンケート」

この質問紙の構成は、基本的には、(1)中学生の学校生活を問う質問、(2)中学生の家庭生活を問う質問、(3)中学生の日常生活と関心を問う質問、(4)中学生の非行問題行動を問う質問、の 4 つの部分から成り立っている。そしてこれらの各領域に含まれる対象や事柄について、子どもたちがどのように意識したり、あるいは実際に行動しているかが明らかになるよう、合計 55 の質問を用意した。表 6 は質問紙の構成を示したものである。これらの質問項目の具体的内容は本文及び本報告書の最後に示している。

表 6 中学生用質問紙の構成

質問のカテゴリー	質 問 の 内 容	質問項目数
学校生活	・学校生活と勉強 ・友人関係 ・悩みと相談相手 ・クラスにおける活動	16 問
家庭生活	・両親との対話 ・両親に対するイメージ ・親の養育に対する認知 ・基本的生活習慣 ・こづかいとアルバイト	19 問
日常生活と関心	・勉強時間と学習塾 ・帰宅後や休日の生活 ・テレビとラジオ ・中学生の関心	16 問
非行・問題行動	・非行・問題行動の体験	4 問

② 「中学生のしつけについてのアンケート」

この質問紙の構成は、基本的には子どもの生活や行動に対する親の養育態度・行動と親自身の生活態度及び生活実感を問う質問の2つの部分から成りたっている。すなわち、質問紙はまず、子どもの生活領域を基本的生活の領域、学習の領域、親子の交流の領域、その他の領域の4つの側面に区分し、これらの各領域に対する親の養育態度・行動の領域の世話、授与、受容、叱責、世話、相談などの側面に区分して、それらの実態が明らかになるように構成した。また付加的な質問として、子どもに対する親の意識と親自身の生活態度を問う質問が若干用意された。表7は質問紙の構成を示したものである。これらの質問項目の具体的内容は本文及び、本報告書の最後に示している。

表7 親用質問紙の構成

子どもの生活領域	親 の 行 動 ・ 意 識	質問項目数
基本的生活領域	・世話 ・受容 ・注意・叱責	11問
学 習 の 領 域 親子交流の領域	・授与 ・意識 ・対話 ・相談	3問 6問
その他の子どもの 生 活 の 領 域	・こづかい ・手伝い ・性教育	5問
	・子どもに対する評価 ・子どもについての悩み ・子どもに対する気づかい ・子どもに対する期待	7問
	・親自身の生活の規則性 ・生きがいと充実感 ・しつけに対する自己評価 ・对学校・教師批判	9問

3 分析の基本的な視点

結果の分析は、本調査（昭和57年度）をもとに発表した「福岡県における中学生の意識・行動と父親母親の養育態度・行度の実態（その1）」の中で、第一部では中学生の実態を学年別、男女別にまとめ、第二部では父親・母親の養育態度、行動の実態として、子どもと親を並列の形式で実態のみを明らかにしてきたところである。

本年度は、子どもの生活態度と親の養育態度との関連、すなわちクロス分析により親の養育態度・行動が子どもの意識・行動にどのように影響しているかを考察した。そのために、主として子どもの問題行動発生率に限定し、いかなる養育態度・行動のタイプが子どもにとって問題行動をひき起しやすいかという問題を検討し、これからの家庭における親の望ましい養育態度・行動を示唆するものとする。

Ⅱ 分析の結果

1 養育態度・行動の類型化

子どもに対する養育行動と言ってもむしろ単純なものではない。両親の養育行動は、朝起きてから夜寝るまでのあらゆる局面で行われており、その全体が子どもに対する養育行動の実態を形成している。つまり、そこには、朝、子どもを起こしてやる、子どもの寝ていたふとんやベットの整理してやるといった一つひとつの行為がバラバラに切り離されて養育行動が成立しているわけではない。そうした一連の行為がある家庭における親の養育行動と言うことになる。

従来、養育態度や養育行動に関する検討では、一つひとつの行為を切り離して問題にしているケースが少なくない。しかし、現実の問題になるのは、その一つひとつの行為ではなく、全体的に子どもの世話をしている。あるいは全体的に子どもの面倒をみていないといった、いわば養育態度・行動のタイプである。

このような意味で、今回の検討では、両親の養育態度・行動のタイプを明らかにし、その上でそれが子どもにいかなる影響を及ぼしているかを分析することにした。なお、子どもに対する影響については、今回は主として子どもの問題行動の発生率に限定し、いかなる親の養育態度・行動のタイプが子どもにとって問題行動を引き起しやすいかという問題を検討することにした。

ところで、養育態度・行動のタイプ、あるいは類型といっても極めて多様である。極端に言えば、100人の母親がいれば100タイプの養育態度・行動の類型があるはずである。ただ、そうは言ってもその100タイプの中には類似した類型もあるだろう。それでここでは、検討をより鮮明にするために以下述べるような四つのタイプに分類した。

まず、分析の手続きについて述べる。養育態度・行動の類型化には、数量化理論第Ⅲ類という方法を用いた。数量化理論第Ⅲ類とは、多くの変数（質問項目）に対するケース（回答者）の反応パターンに着目して、反応パターンの似た者同士が近い数値になるようにケース（回答者）や変数カテゴリー（回答）を数量化する方法である。これによって、変数（質問項目）間の相互関連を回答の傾向から明らかにし、同時にケース（回答者）を質的に異なるまとまりに類型化することができるのである。

この方法を用いて父親の養育態度・行動の類型化を行った結果が表－8である。これは先に行った父親に対する質問紙調査の中で、25の質問項目、60の回答項目を使用して分析した結果である。この25の質問、60の回答を最も有効に仕分けする軸として第1軸が考えられる。各カテゴリー（回答）に与えられた数値はケース（回答者）の回答として類似性の高い者が近い数値をとっている。したがって、まったく対極に位置しているプラス方向とマイナス方向のカテゴリー（回答）は、回答傾向がほとんど類似していないと考えてよい。

第Ⅰ軸（12～13ページ参照）についてみてみよう。第Ⅰ軸のマイナス方向では、「夜食をつかってやることもある」、「性についての指導をしている」、「家庭のこと（子ども自身のことを除く）で意見を聞いたり、相談することがある」、「子どもの交友関係を知っている」「こずかいの使いみちを知っている」といったもののほか、「学校生活や子どもの将来のこと、人生観等々について話すことがある」としている。

一方、プラス方向では、「子どもが自分勝手なことを言っても何も言わない」、「子どもの服装や髪型について何も言わない」、「子どもの言葉づかいが乱暴な時何も言わない」「テレビやスポーツについて話さない」。「子どもの将来や人生観について話さない」等々が並んでいる。

こうした結果から判断するとⅠ軸のマイナス方向には、親子のコミュニケーションをはじめとして、親子間の交流がかなり緊密である傾向がうかがえる。反対に、プラス方向では、親子のコミュニケーションはもちろん、子どもに対して何も言わないような傾向が認められる。そうすると、このⅠ軸は親子のコミュニケーションを含む交流の度合いが積極的か消極的かを仕分ける軸と言えそうである。そこで、一応、このⅠ軸のマイナス方向を「親子の交流の度合いが積極的」、そしてプラス方向を「親子の交流の度合いが消極的」と呼んでおくことにする。

次に、第Ⅱ軸（12～13ページ参照）についてみてみよう。まず、マイナス方向には、「子どもをなぐりたいと思うことはない」、「子どもの言葉づかいが乱暴なとき注意する」、「子どもの服装や髪型は注意する」、「子どもの気持ちがわかる」等々といった内容のほか、「子どものしつけに自信がある」、「子どもから信頼されている」といったものが並んでいる。一方、プラス方向では、「子どもにたいしてはれものにさわるような気持ちになることがある」、「子どもに信頼されていない」、「今朝、子どものふとん（ベット）のあとしまつをした」、「毎日の生活に充実感がない」、「子どもの気持ちがわからない」、「子どものしつけに自信がない」等々があがっている。

こうした結果からみると、Ⅱ軸のマイナス方向には、子どもに対して、しつけをはじめとして一定の自信があることがわかる。ところが、プラス方向になると、「子どもに対してはれものにさわるようだ」、「気持がわからない」といつたようなことをはじめとして、しつけにも自信がないようである。そうすると、この第Ⅱ軸は子育てについての自信の度合いを仕分ける軸と言えそうである。すなわち、Ⅱ軸のマイナス方向は「子育てについて自信がある」、一方プラス方向は「子育てについて自信がない」と呼ぶことができそうである。

こうした第Ⅰ軸、第Ⅱ軸に続いて、第Ⅲ軸以下の軸が析出されるが、今回はこれらの検討を省略した。また、同様の分析を母親についても行った。その分析結果が表9である。母親の場合も、父親と同じく、第Ⅰ軸は「親子の交流が積極的↔消極的」、第Ⅱ軸が「子育てについて自信がある↔自信がない」と呼ぶことにした。

ところで、父親・母親の養育態度・行動の類型化に最も有効な軸として析出された第Ⅰ軸と第

Ⅱ軸とは相互に独立の関係にある。そこで、この第Ⅰ軸（親子の交流が積極的←→消極的）第Ⅱ軸（子育てについて自信がある←→自信がない）の二つの軸によって、父親・母親の養育態度・行動に関する四類型をつくることができる。第Ⅰ軸をよこ軸に、第Ⅱ軸をたてに軸にして、その組合せから四類型を考えることができるのである。つまり、

- (1) 子育てについて自信がありかつ子どもとの交流に積極的なタイプ
- (2) 子育てについて自信があるけど子どもとの交流に消極的なタイプ
- (3) 子育てについて自信はないけれども子どもとの交流に積極的なタイプ
- (4) 子育てについて自信もなく子どもとの交流に消極的なタイプ

の四つである。この四つの養育態度・行動に関する類型の特徴については、次節以下の分析を参照されたい。

また、ここで用いた数量化理論第Ⅲ類という方法は、表 8、表 9 に示した各カテゴリー（回答）に与えられた得点をもとにして、サンプル（回答者）一人ひとりについて、養育態度・行動がどの類型に属しているか明らかにすることができる。つまり、一人ひとりのサンプル（回答者）は、各質問項目のいずれかの回答項目を選択して回答しているはずである。そして、各回答項目には表 8、表 9 に示したような数値が与えられている。それを単純に計算すれば、それぞれのサンプル（回答者）が、四つの養育態度・行動のいったいどの類型に位置づけられるのか理解できる。

次節以下の分析では、父親・母親の養育態度・行動の類型と子どもの特性（とくに問題行動発生率を中心とした）との関連が明らかにされている。この分析では、一人ひとりのサンプル（回答者）の得点が問題になるが、そのサンプル（回答者）の得点は、以上に述べた各回答項目に与えられた数値をもとにして得られたものである。

たとえば問題行動の重大な一つである万引きについて述べると、まず万引きを経験した子どもの父親、ないしは母親の養育態度・行動の類型が問題になる。これについては、実際に万引きを経験した何人かの子どもの親（サンプル）に与えられた得点の平均値を出し、他方万引きを経験していない何人かの子どもの親（サンプル）に与えられた得点の平均値を出し、この両者を比べたものである。

したがって、万引きを経験した子どもの親の養育態度・行動に対する類型と、これを経験していない子どもの親の養育態度・行動の類型とが異なっていれば、子どもの万引き発生について親の養育態度・行動がなんらかの意味をもっていると判断できるのである。

以上のような手続きにそって、以下父親、母親の順に詳細な検討を進めていくことにする。

表8 数量化理論第Ⅲ類の分析結果(父親の養育態度・行動のパターン)

- カテゴリー・ウェイト表(Ⅰ軸・Ⅱ軸) -

第Ⅰ軸		第Ⅱ軸	
カテゴリー(回答)	数値	カテゴリー(回答)	数値
夜食をつくってやることがある	-2.1787	子どもをなぐりたいと思うことない	-2.6127
性の指導している	-1.7901	生きがいは妻	-2.3261
家庭のことを子どもに相談する	-1.4428	言葉づかい乱暴な時注意する	-2.3096
子どもの交友関係を知っている	-1.1438	服装や髪型注意する	-2.1117
こづかいの使いみちを知っている	-1.0900	子どもの気持ちわかる	-1.8861
生きがいは妻	-1.0036	自分勝手なとは何も言わない	-1.4203
学校生活のこと話す	-0.9251	自分勝手なとき注意する	-1.1784
将来や人生のこと話す	-0.8532	言葉づかい乱暴なとき何も言わない	-0.8902
成績が上がった時何か買ってやる	-0.8529	目上の人に乱暴な言い方したとき教えていない	-0.8724
今朝、起してやった	-0.7965	生きがいは、その他(複合回答)	-0.7587
目上の人に乱暴な言い方をした時教える	-0.7047	しつげに自信ある	-0.7320
手伝いは週3~4回させる	-0.5898	生きがいは仕事	-0.6242
テレビ・スポーツのこと話す	-0.5668	手伝いさせていない	-0.5153
しつげに自信がある	-0.5649	子どもに信頼されている	-0.4633
手伝い週5~6回させる	-0.5635	成績が上がった時何もしてやらない	-0.4464
今朝ふとんのあとしまつしてやった	-0.4922	家庭のこと子どもに相談しない	-0.4235
服装や髪型きびしくしかる	-0.4913	規則正しい生活をおくっている	-0.3758
生きがいは子ども	-0.4711	手伝い週3~4回させる	-0.3313
お金の要求聞いてやる	-0.4516	毎日の生活に充実感ある	-0.3083
子どもから信頼されている	-0.4189	はれものにされるような気持ちになることない	-0.2911
子どもの気持ちがわからないことある	-0.4017	お金の要求きかない	-0.2478
言葉づかい乱暴なとききびしく注意する	-0.3375	学校生活のこと話す	-0.2166
規則正しい生活をおくっている	-0.3210	生きがいは家事	-0.2036
毎日の生活に充実感ある	-0.2760	交友関係知っている	-0.1781
自分勝手なこと言った時、きびしくしかる	-0.2158	今朝おこしてやついない	-0.1594
子どもをなぐりたいことある	-0.2092	服装や髪型何も言わない	-0.1406
中略		中略	
夜食をつくってやることない	0.1726	生きがいは子ども	0.1142
今朝起してやった	0.1746	手伝い週1~2回させる	0.1991
子どもをなぐりたいと思うことない	0.2545	こづかいの使いみち知らない	0.2039
成績が上がっても、何もしてやらない	0.2731	目上の人に乱暴な言い方した場合教える	0.2124
子どもの気持ちわからない	0.2762	交友関係知らない	0.2707
性の指導していない	0.4595	家庭のこと子どもに相談する	0.3711
生きがいは仕事	0.5159	性の指導している	0.4987
規則正しい生活おくっていない	1.0569	生きがいはない	0.6652
手伝いさせていない	1.1215	今朝おこしてやった	0.7273
お金の要求きかない	1.1369	学校生活のこと話さない	0.7767
こづかいの使いみち知らない	1.6061	自分勝手なとききびしく注意する	0.8114
家庭のこと子どもに相談しない	1.6465	手伝い週5~6回させる	0.8205
しつげに自信がない	1.6478	規則正しい生活おくっていない	1.2375
子どもの交友関係知らない	1.7387	成績が上った時、何か買ってやる	1.3943
生きがいは趣味	1.8411	言葉づかいが乱暴なとききびしく注意する	1.4113
毎日の生活に充実感ない	2.3190	服装や髪型きびしく注意する	1.6756
子どもに、信頼されていない	2.5623	夜食をつくってやることある	1.7404
生きがいは家事	2.5934	生きがいは趣味	1.8250
目上の人に乱暴な言い方をした時何も言わない	2.8954	しつげに自信がない	2.1353
将来や人生のこと、話さない	3.0031	子どもをなぐりたいことある	2.1468
学校生活のこと、話さない	3.3267	子どもの気持ちわからないことある	2.4523
テレビ・スポーツのこと話さない	3.5005	毎日の生活に充実感ない	2.5904
言葉づかい乱暴な時、何も言わない	3.7426	今朝ふとんのあとしまつしてやった	2.5993
服装や髪型何も言わない	3.9709	子どもに信頼されていない	2.8326
自分勝手な時何も言わない	4.8489	はれものにさわるような気持ちになることある	4.1229

表9 数量化理論第Ⅱ類の分析結果(母親の養育態度・行動のパターン)

— カテゴリー・ウェイト表(Ⅰ軸・Ⅱ軸)			
第Ⅰ軸		第Ⅱ軸	
カテゴリー(回答)	数値	カテゴリー(回答)	数値
性の指導している	-1.2012	自分勝手な時何も言わない	-5.2941
生きがい、その他(複合回答)	-0.9789	言葉づかい乱暴な時何も言わない	-3.6096
家庭のこと子どもに相談する	-0.8020	服装や髪型何も言わない	-3.0363
しつげに自信ある	-0.7446	なぐりたいと思うことない	-2.4032
夜食をつくってやることある	-0.6880	目上の人に乱暴な言い方した時教えていない	-2.3873
手伝い週4~5回させる	-0.6384	子どもの気持ちわかる	-1.7440
成績が上がった時、何か買ってやる	-0.5634	生きがい、その他(複合回答)	-1.7148
生きがいはない	-0.5368	言葉づかい乱暴な時、注意する(おだやか)	-1.6594
目上の人に乱暴な言い方した時教える	-0.4929	生きがいは仕事	-1.5498
手伝い週5~6回させる	-0.4641	服装や髪型注意する(おだやか)	-1.0977
子どもの交友関係知っている	-0.4572	生きがいは家事	-1.0771
服装や髪型注意する(きびしく)	-0.4357	今朝起してやっていない	-1.0130
テレビ・スポーツのこと話す	-0.4306	お金の要求きかない	-0.9628
将来や人生のこと話す	-0.4162	しつげに自信ある	-0.8091
生きがいは夫	-0.4133	生きがいは趣味	-0.7713
子どもに信頼されている	-0.3428	今朝ふとんのしまつしてやっていない	-0.6695
学校生活のこと話す	-0.3411	成績上がっても何もしてやらない	-0.6255
言葉づかい乱暴なとききびしくしかる	-0.3254	自分勝手な時、注意する	-0.5374
毎日の生活に充実感ある	-0.3083	はれものにさわるような気持ちになったことない	-0.5286
規則正しい生活をおくっている	-0.2639	夜食つくってやることない	-0.4647
こづかいの使いみち知っている	-0.2528	手伝い週5~6回させる	-0.4363
今朝起こしてやった	-0.2135	家庭のこと子どもに相談しない	-0.3593
子どもの気持ちわかる	-0.2096	手伝い週4~5回させる	-0.3591
自分勝手な時、きびしくしかる	-0.1676	子どもから信頼されている	-0.2536
子どもをなぐりたいと思うことない	-0.1352	生きがいは夫	-0.2416
中略		中略	
お金の要求きかない	0.2167	交友関係知っている	0.0174
今朝ふとんのあとしまつしてやった	0.2171	将来や人生のこと話さない	0.1278
手伝い週1~2回させる	0.2885	家庭のこと子どもに相談する	0.1402
夜食つくってやることない	0.3128	性の指導している	0.1507
子どもの気持ちわからない	0.3181	お金の要求きいてやる	0.2101
今朝起こしてやっていない	0.3807	目上の人に乱暴な言い方した時教える	0.2624
生きがいは家事	1.0280	毎日の生活に充実感ない	0.3356
しつげに自信ない	1.2300	生きがいは子ども	0.4464
性の指導していない	1.2698	テレビ・スポーツのこと話さない	0.5483
手伝い、全くさせていない	1.3989	自分勝手なとききびしくしかる	0.5510
はれものにさわるような気持ちになることある	1.5089	規則正しい生活おくっていない	0.5600
生きがいは仕事	1.9632	今朝起してやった	0.5681
家庭のこと、子どもに相談しない	2.0591	夜食をつくってやることある	1.0221
子どもに信頼されていない	2.5103	服装や髪型きびしくしかる	1.1062
規則正しい生活をおくっていない	2.5612	言葉づかい乱暴な時、きびしくしかる	1.2287
こづかいの使いみち知らない	3.0418	しつげに自信がない	1.3367
毎日の生活に充実感ない	3.2917	学校生活のこと話さない	1.5842
将来や人生のこと話さない	3.7881	こづかいの使いみち知らない	1.7352
子どもの交友関係知らない	4.2678	手伝いさせていない	1.7547
目上の人に乱暴な言い方した時、教えていない	4.4866	子どもに信頼されていない	1.8502
学校生活のこと話さない	5.9179	子どもなぐりたいと思うことある	1.9791
テレビ・スポーツのこと話さない	6.0220	今朝ふとんのあとしまつしてやった	2.1565
服装、髪型何も言わない	7.3944	子どもの気持ちわからない	2.8478
言葉づかい乱暴な時、何も言わない	11.4676	成績上がった時、何か買ってやる	2.6827
自分勝手な時何も言わない	11.6055	はれものにさわるような気持ちになることある	6.1657

2 子どもの行動と父親の養育行動の類型

(1) 父親の養育態度・行動の類型の特徴

すでに前章「養育行動の類型化」のところで述べたとおり、今回の調査からは「子育てについての自信の度合い」及び「親子の交流の度合い」という二つの観点を基準として四つの類型を抽出してみた。

第1の型は、子育てについて自信があつてかつ子どもとの交流に積極的な型、第2に、子育てについて自信はあるけれども子どもとの交流に消極的な型、第3は、子育てについて自信はないけれども子どもとの交流に積極的な型、第4は、子育てについての自信もなく子どもとの交流も消極的な型の四つに分かれる。次の図-1は本調査から判明した父親の養育態度・行動を前述の統計的手法により二つの軸を用いて配置したものである。

この図から父親の養育態度・行動についてそれぞれ（四類型）の主な特徴を列挙すると次のようなことが指摘できる。

ア 第1の類型（子育てについて自信があつてかつ子どもとの交流に積極的な型）

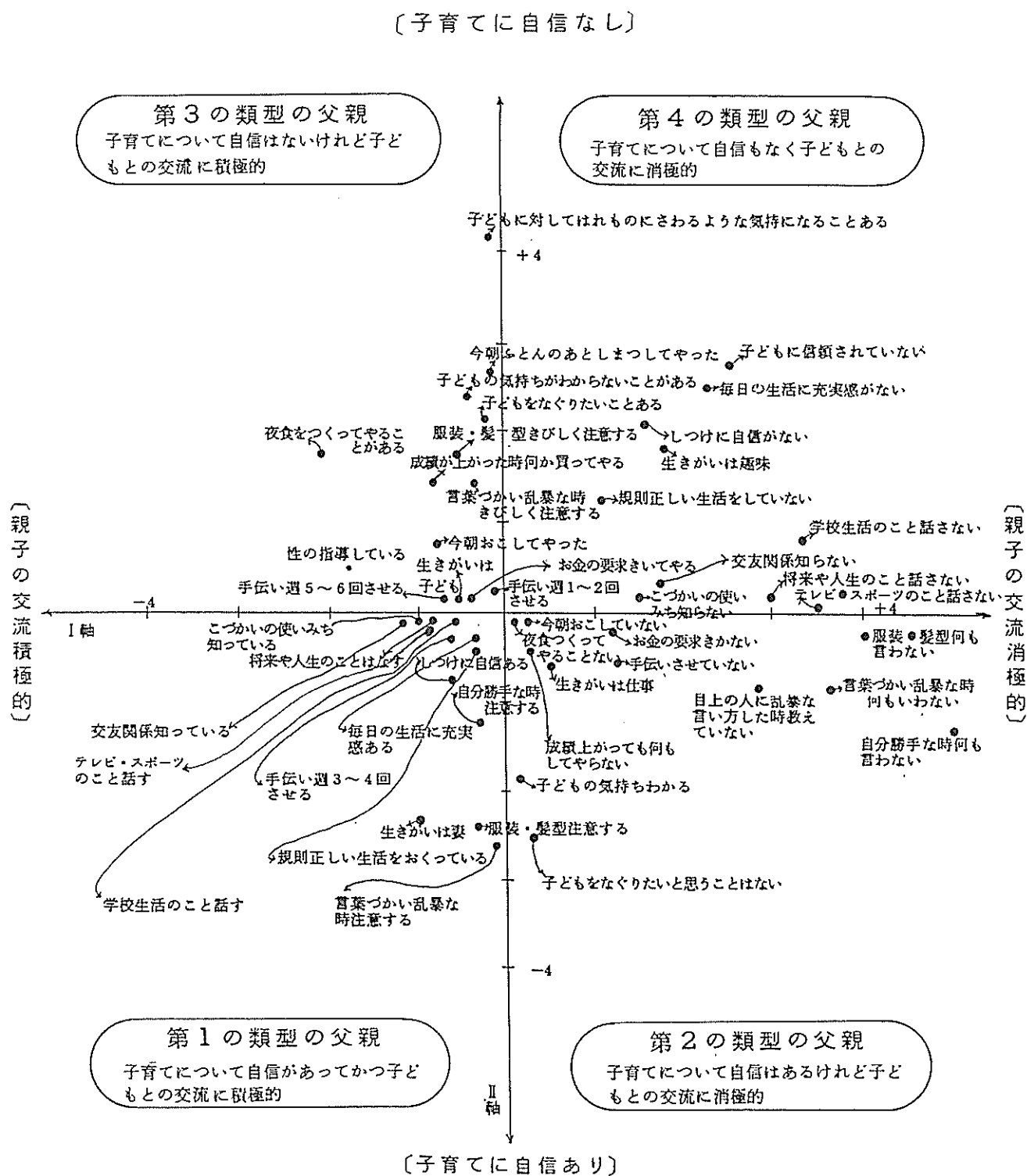
この類型の父親は、子育てに自信もありまた子どもとの交流も積極的に行っているので、子どもの言葉づかい、服装、自分勝手な行為等が好ましくないとは判断された場合にはきちんと注意をしている。子どもの手伝いについても週3～4回の割合で何らかの役割を課している。また、日常の学校生活、テレビやスポーツの話題、将来のこと等について子どもとよく話している。したがって子どもの交友関係やこづかいの使いみち等についても比較的よく知っている。他方、自分自身については、日々の生活に充実感を抱いており、生きがいの対象は妻であると答えるなどの特徴がある。

イ 第2の類型（子育てについて自信はあるけれども子どもとの交流に消極的な型）

この類型の父親は、子どもの態度・行動が好ましくなくても注意を与えていないことが第1の特徴である。すなわち、服装や髪型について注意せず、言葉づかいが適切でなくても、あるいは乱暴な言い方をした場合でも叱らず、子どもが自分勝手な行動をした時ですらもおこらない。日々の手伝いもさせることはない。

しかしながら子どもの気持ちはわかると答えており、子どものふるまいにいらいらして、なぐりたいたいと思うような場合もない。夜食もつくってやらず、成績が上がっても特別のほうびはやらない。性教育の指導も行っておらず、臨時のこづかいの要求も却下している。要するに、子どもについてはあまりかまわないとすることができる。一方自分自身については、生きがいは仕事と答えている。

図一 1 父親の養育態度・行動の類型



ウ 第3の類型（子育てについて自信はないけれども子どもとの交流に積極的な型）

この類型の父親は、子どもにいらいらしながらもかつ遠慮をしている傾向がある。だから、時々、子どもをなぐりたいと思うことがあり、子どもの世話は他の類型の父親に比べてかなりよくやっている。こづかいの要求も聞くことがあり、性教育の指導もしている。手伝いもよくさせている。さらに、夜食をつくったり、ふとんのあとしまつもしてやっている。自信はないけれども言葉づかいや服装についても注意はしている。成績が上がった時にほうびを買ってやるというのも他の類型の父親には見られないことである。

エ 第4の類型（子育てについて自信もなく子どもとの交流に消極的な型）

この類型の父親は、しつけに自信がなく、自分は子どもから信頼されていないと感じている。子どもとの交流も消極的なので学校生活やテレビやスポーツについての対話もなく、人生についても語っていない。したがって、子どもの友人関係やこづかいの使いみちについてはほとんど知識がない。一方、自分の人生については趣味が生きがいであるとしているが、日常生活に充実感を感じていない。

以上、養育態度及び行動の特性から父親のタイプを四つの型に分類してみたが、これらの父親と子どもとの関係はどうであろうか。

（2）子どもの問題行動と父親の養育行動の類型

家庭は両親、兄弟、祖父母等から成りたっている。したがって父親のあり方がすぐ直接子どもの態度や行動に結びつくことにはならない。父親の足りない分については母親が補ったり、また仮に父親が物理的に不在であっても父親の存在感が子どもに感じられる場合にはほとんど問題が起っていないことは周知のとおりである。さらに、今回の調査のように対象が中学生である場合には、子どものそれぞれの“意志”が態度や行為のあり方に大きくかわることも当然である。

しかしながらそれでもなお、上述のことは父親のあり方の如何が子どもの成長に影響を与えないということを決して意味してはいない。逆に母親が補っていたとしても、あるいは子どもの意志がかかわっていたとしても、なおかつそれらと同時に父親の影響が存在しているのである。

ア 先生に対する暴力、無断外泊、万引き、家出、無免許運転と父親の養育行動の類型との関係

次の図－2は社会的な問題行動、たとえば「先生に対する暴力」、「無断外泊」、「万引き」、「家出」、「無免許運転」などを経験したことのある子どもの父親の養育態度・行動を前掲の類型図の上におとしてみたものである。

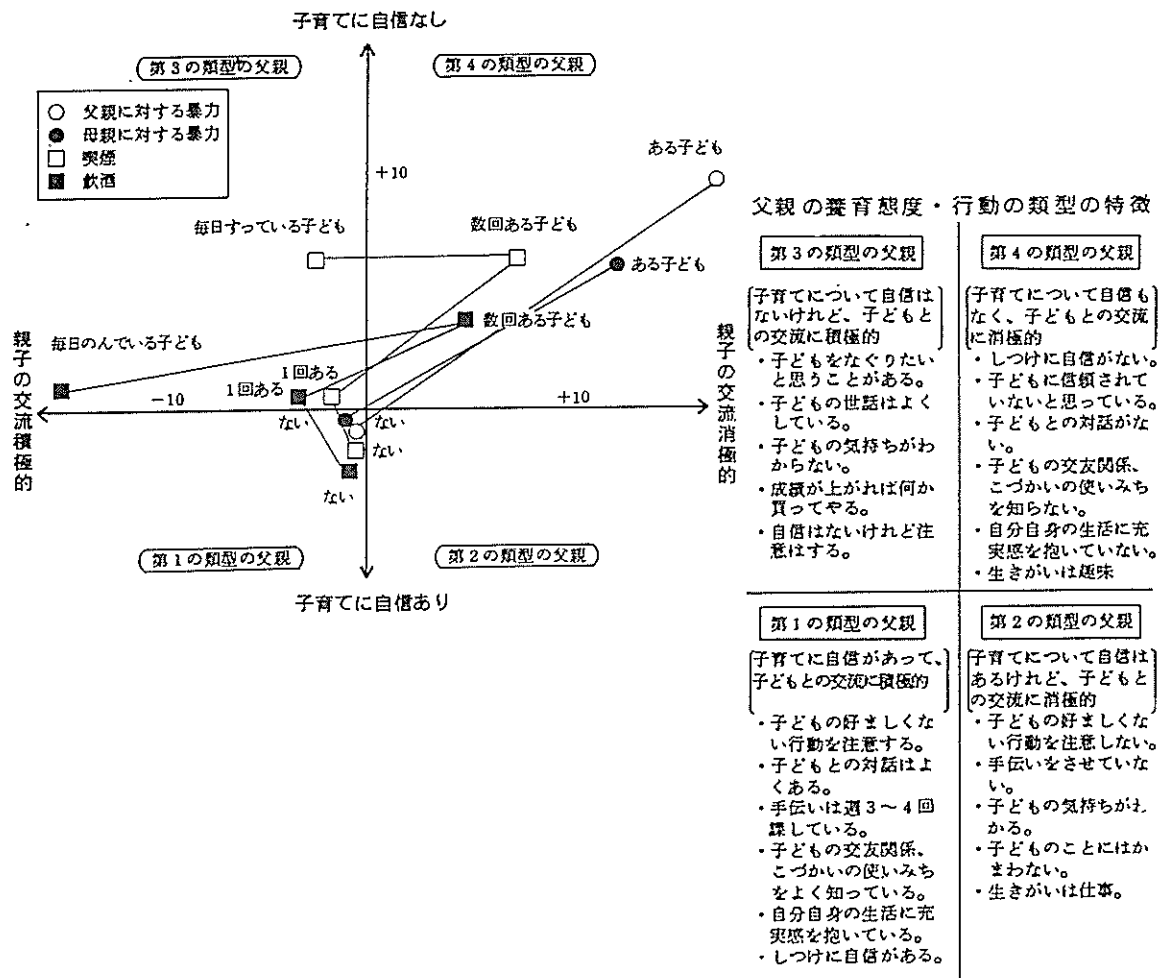
この図からわかるように、「無断外泊」をしたり、「先生に対する暴力」、「万引き」をしたりしたことのある子どもは父親が第4の類型の場合が多い。ところが「家出」や「無免許運転」

図-2 問題行動を経験した子どもと父親の養育態度・行動の関係 ($\times 10^{-2}$)



しく、かつまた子どもとの交流もなくほとんど放任的であることがわかる。喫煙や飲酒については図からみて明らかなように必ずしも一定の父親像を描くことができない。しかしながらこの種の問題をおこした子どもは第4の類型あるいは第3の類型の父親に多いことがうかがえる。

図-3 問題行動を経験した子どもと父親の養育態度・行動の関係 (×10⁻²)



ウ 子どもの自主性、子どもに対する接し方、子ども自身の学校での役割・責任の遂行と父親の養育行動の類型との関係

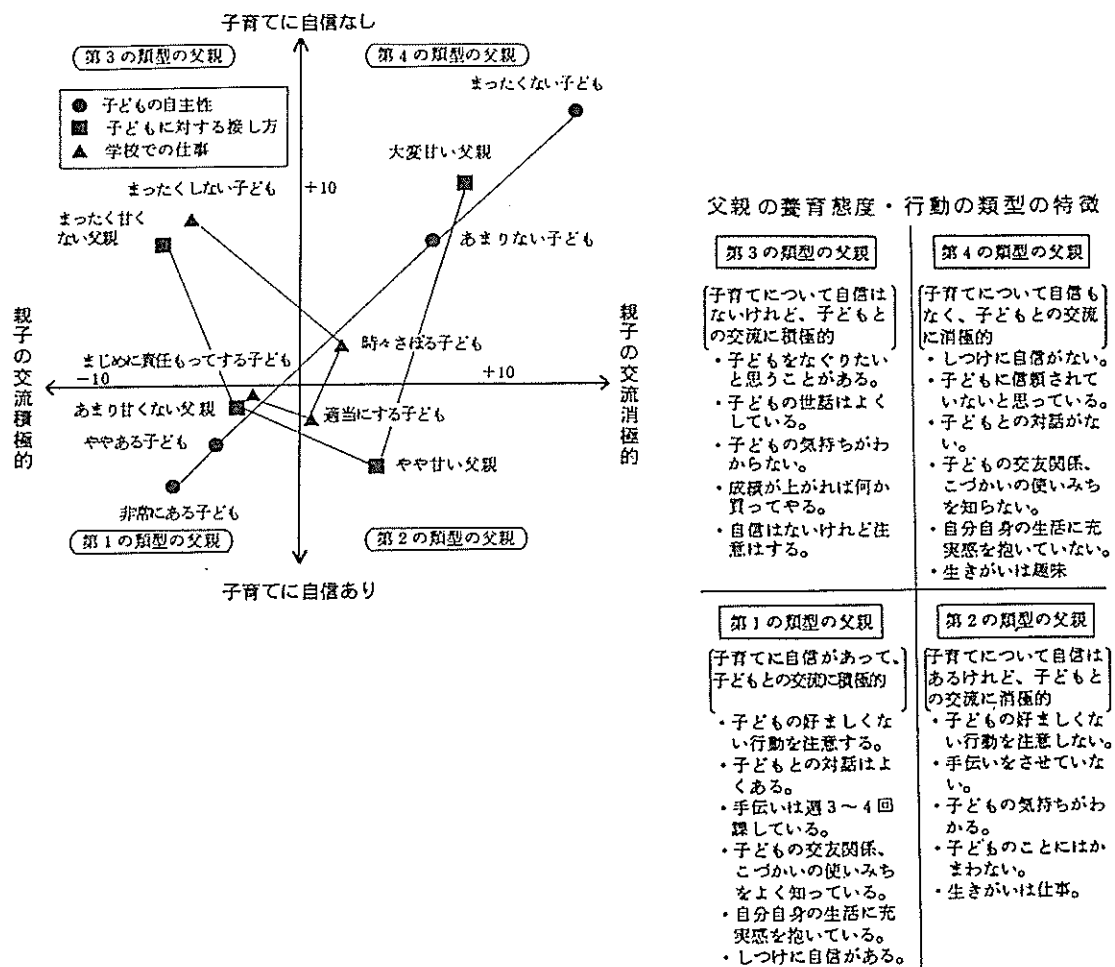
次の図-4は子どもの自主性や子どもに対する接し方及び子ども自身の学校での役割・責任の遂行の仕方と父親の養育態度・行動の類型との関係をみたものである。

自主性のある子どもは父親が第1の類型に多く、自主性のない子どもは父親が第4の類型に多い。子どもに甘い父親は第4の類型に多く、子どもに甘くない父親は第3の類型に多い。

図に示されたとおり、子どもとの交流が消極的である場合が放任的になるのか、「大変甘い」、「やや甘い」という傾向を示している。これに対して子どもとの交流が積極的である場合に子どもへの対

し方が厳しくなる傾向がある。ここで興味あることは、子どもに対する対応が大変甘いのは子育てに自信がなくて子どもとの交流に消極的である父親であるのに対し、子どもへの対し方が厳しいのは子育てに自信がなくて子どもとの交流が積極的なタイプの父親である。いわば、「自信がない」ゆえに一方では対処を放棄して甘くなるのか、他方ではあれこれとやかましく指摘するというタイプにわかれるようである。次に学校での仕事をさぼるような子どもは父親が第3の類型に最も多く、第4の類型が次いで多い。

図-4 子どもの自主性や子どもに対する接し方及び子ども自身の学校での役割や責任遂行の仕方と父親の養育態度・行動との関係(×10⁻²)



エ 子どもの親に対する信頼度、小学校時代および現在の家の手伝いの程度、将来や人生について親との話合いの度合いと父親の養育行動の類型との関係

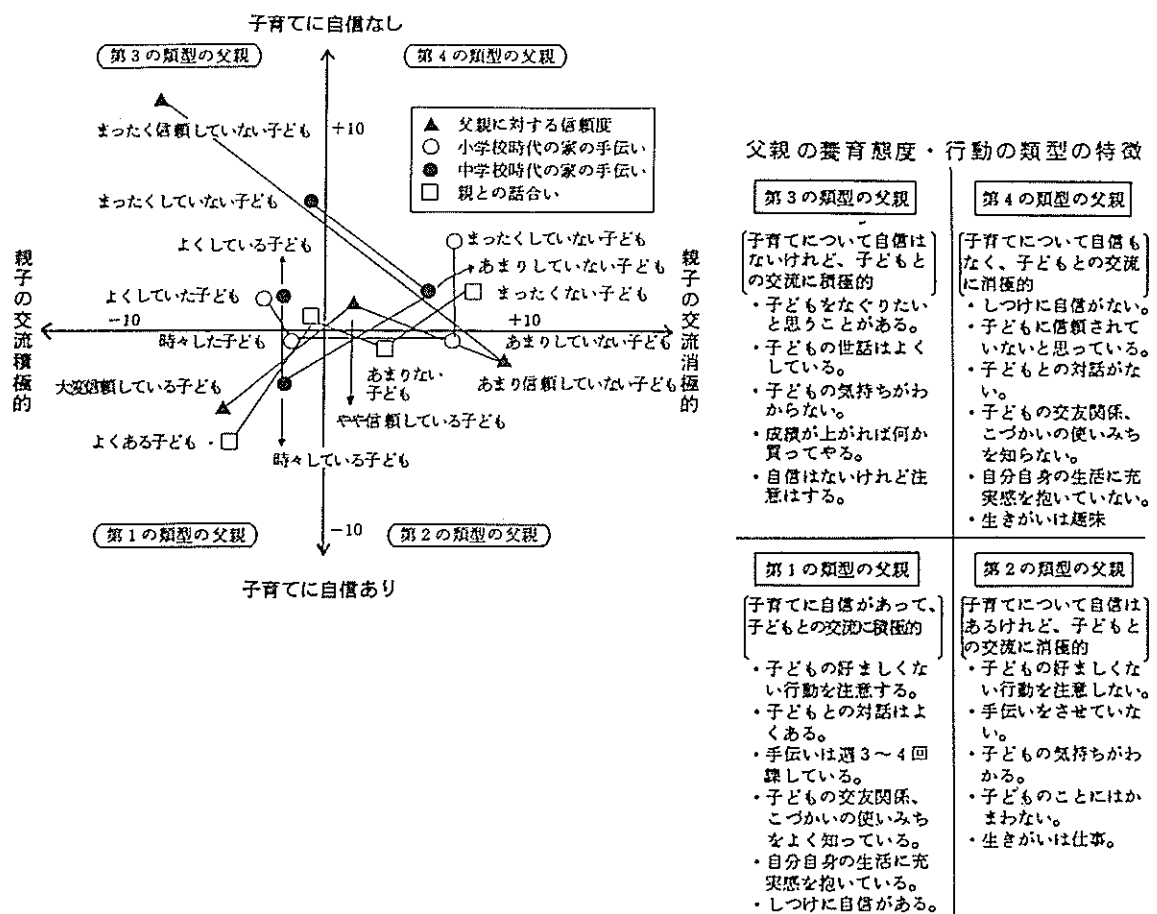
次の図-5は子どもの親に対する信頼度、小学校時代の家の手伝いの度合い、将来や人生についての親との話合いの度合いと、父親の養育態度・行動の類型との関係をみたものである。

子どもが信頼しているのは第1の類型の父親であり、まったく信頼していないのは第3の類型

の父親である。この図にみる限り、子どもの信頼は子どもとの交流があるだけではかち得ることができないことを示している。子どもとの交流を積極的に行っていても親が不安であり、自信がない場合には子どもに信頼されていない。また逆に親の側にある程度の自信があったとしても一定量の子どもの交流がない場合にはやはり信頼されていないのである。

次に小学校時代の手伝いの状況は、まったくしたことのない子どもは父親が第4のタイプの多く、続いて第2のタイプ、第1のタイプ、第3のタイプの順で手伝いをする度合いが増している。この傾向は中学生になるとやや変化し、まったく手伝わないのも、よく手伝うのも父親が第3のタイプに多いのである。要するに親が子どもをかまって、いろいろ世話をやく場合、小学校時代の子どものそれに反応して手伝いなどもよくやっていたようである。逆に親が子どもと交流がない場合になると当然のことであろうが、子どもも親の手伝いはまったくしていない。しかし、中学生段階に入ると子どもの意志が親から独立して、親があれこれと世話をやいたりしても子どもの側がそれに反応してくるとは限らなくなる。したがって、この段階では、親からの働きかけに対してよく反応する子どもと、親からの働きかけをまったく無視して全然手伝いなどしない子どもという二つに分れることが考えられるのである。

図-5 子どもの父親に対する信頼度、小学校時代および現在の家の手伝い、将来や人生についての親との話合いの度合いと父親の養育態度・行動との関係、
($\times 10^{-2}$)



次に子どもと父親とが将来や人生のことについて日常どの程度話し合っているかについてみてみたい。子どもとこうしたことがらについてよく話し合っている父親は第1の類型に多い。反対に将来のことも人生のこともまったく話をしないというのが第4の類型の父親に多い。第2、第3の類型の父親はちょうどその中間に位置している。

以上四つの図から子どもの態度や行動と父親の養育態度・行動の類型との関係をみてきたが、これらの関係の分析から次のようなことが要約できる。

第1は、子どもたちにとって最も望ましいと考えられる父親は第1の類型である。第2に、子どもたちにとって最も問題が多いと思われる父親は第4の類型である。第3に、第3の類型の父親は子どもに対する関心が高く、その世話もよくしているが、子どもに対する自信のなさが時に、子どもの問題行動につながっているようである。第4に、第2の類型の父親の場合は特に問題のある子どもの態度や行動を生み出してはいないけれど、同時に好ましいと思われる態度や行動の育成にも成功していないようである。

(3) 問題行動を経験した子どもの父親と問題行動を経験していない子どもの父親との養育態度・行動の比較についての事例研究

次の表-10は本調査において問題行動を経験した子どものうち、その、程度の甚だしいものから順に男女35名（生徒用質問紙、質問46の中の13項目の問題行動のうち6項目以上に経験したと回答した子ども）を選び、具体的な問題行動の種類を記したものである。

表-11はこれら35名の問題行動を経験した子どもの父親の養育態度・行動と経験していない子ども（生徒用質問紙、質問46の中の13項目の問題行動をまったく経験がないと回答した子どもを無作為に抽出）の父親の養育態度・行動の特性を比較したものである。

表 10 問題行動を経験した子どもの具体的な問題行動の種類

(○…経験あると回答 ×…経験なしと回答)

サンプル(性別)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
問題行動の種類		男	男	男	女	男	男	女	男	男	男	女	男	男	女	女	女	女	男	男	男	男	男	男	男	男	女	女	男	男	女	男	男	男	男	女
問題行動の種類	親にだまって外泊をしたこと	×	○	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	○	×	×	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	無免許運転をしたこと	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	万引きをしたこと	○	×	○	×	○	○	×	○	○	○	×	○	○	×	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
	先生をなぐったこと	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	家出をしたこと	×	○	○	×	×	○	○	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	
	暴走行為をしたこと	○	○	×	×	○	○	×	○	×	×	×	×	○	×	×	×	×	○	○	×	○	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×
	学校の帰り道喫茶店に行ったこと	×	×	×	○	×		○	×	×	×	○	○	○	×	○	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	○
	カンニングをしたこと	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	学校の帰り道ゲームセンターに行ったこと	○	○	×	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
	お父さんに暴力をふるったこと	○	○	×	×	○	○	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○
お母さんに暴力をふるったこと	○	○	×	×	○	○	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	
親にかくれて酒をのんだこと (数回以上)	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	
たばこをすったこと (数回以上)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×

表 11 問題行動を経験した子どもの父親と経験していない子どもの父親の養育態度・行動の特性
の比較

(問題行動を経験した子ども……………質問46の13項目の問題行動のうち6項目以上経験した子ども35名)
(問題行動を経験していない子ども…質問46の13項目の問題行動を全く経験していない子ども35名)

質問項目	問題行動経験の有無 回 答	問題行動を経験した 子どもの父親		問題行動を経験して いない子どもの父親	
		人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
1. 朝おこしてやりましたか	はい	8	22.9	4	11.4
	いいえ	24	68.6	31	88.6
2. ベット(ふとん)のあとしまつ	する	1	2.8	0	
	しない	34	97.1	35	100
3. 夜食のサービス	よくある	1	2.8	0	
	時々ある	2	5.7	1	2.8
	ほとんどない	7	20	7	20
	全くない	24	68.6	27	77.1
4. 成績があがったら、物を 買ってやったり、こづか いをやる	よくある	4	11.4	0	
	時々ある	8	22.9	9	25.7
	ほとんどない	9	25.7	12	34.3
	全くない	13	37.1	14	40
6. お金の要求をきいてやる	よくある	7	20	4	11.4
	時々ある	13	37.1	18	51.4
	ほとんどない	5	14.3	8	22.9
	全くない	5	14.3	5	14.3
7. こづかいの使いみち	よく知っている	5	14.3	1	2.8
	だいたい知っている	12	34.3	23	65.7
	ほとんど知らない	10	28.6	10	28.6
	全く知らない	6	17.1	1	2.8
8. 1週間に何回手伝いをさ せたか	全くさせていない	13	37.1	9	25.7
	1回	3	8.6	3	8.6
	2回	4	11.4	6	17.1
	3回	5	14.3	7	20
	4回	3	8.6	5	14.3
	5回	1	2.8	0	
	6回以上	5	14.3	5	14.3
9. あなたに対する、ことば づかいが乱暴な場合	きびしく叱る	21	60	20	57.1
	おだやかに注意	8	22.9	11	31.4
	特に何も言わない	3	8.6		
10. 服装・髪型が中学生らし くない場合	きびしく叱る	14	40	19	54.3
	おだやかに注意	14	40	12	34.3
	特に何も言わない	4	11.4	1	2.8
11. ひわいなことを言った場 合	きびしく叱る	14	40	8	22.9
	おだやかに注意	11	31.4	19	54.3
	特に何も言わない	2	5.7		
12. 自分勝手なことを言った り、した場合	きびしく叱る	19	54.3	16	45.7
	おだやかに注意	12	34.3	16	45.7
	特に何も言わない	1	2.8	1	2.8

質問項目	問題行動経験の有無 回 答	問題行動を経験した 子どもの父親		問題行動を経験して いない子どもの父親	
		人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
13. 反抗的態度をとった場合	きびしく叱る	25	71.4	20	57.1
	おだやかに注意	7	20	12	34.3
	特に何も言わない	0		2	5.7
14. 後始末をしなかった場合	きびしく叱る	15	42.9	10	28.6
	おだやかに注意	12	34.3	20	57.1
	特に何も言わない	7	20	4	11.4
15. テレビ・映画・スポーツ について話すこと	よくある	8	22.9	8	22.9
	時々ある	19	54.3	23	65.7
	ほとんどない	4	11.4	3	8.6
	全くない	3	8.6	1	2.8
16. 性についての指導	よくある	1	2.8	0	
	時々ある	4	11.4	7	20
	ほとんどない	13	37.1	18	51.4
	全くない	17	48.6	9	25.7
17. 将来や人生について話す こと	よくある	7	20	10	28.6
	時々ある	16	45.7	17	48.6
	ほとんどない	6	17.1	7	20
	全くない	5	14.3	1	2.8
18. 学校生活について話すこ と	よくある	7	20	6	17.1
	時々ある	18	51.4	19	54.3
	ほとんどない	5	14.3	8	22.9
	全くない	5	14.3	2	5.7
23. 子どもの交友関係につい て	よく知っている	4	11.4	3	8.6
	だいたい知っている	18	51.4	16	45.7
	あまり知らない	13	37.1	15	42.9
	全く知らない	0		1	2.8
27. なぐりたいと思うこと	よくある	2	5.7	2	5.7
	時々ある	21	60	17	48.6
	ほとんどない	10	28.6	11	31.4
	全くない	2	5.7	5	14.3
28. うこと 気持ちがわからずとまど	よくある	3	8.6	1	2.8
	時々ある	16	45.7	14	40
	ほとんどない	12	34.3	18	51.4
	全くない	4	11.4	2	5.7
29. はれものにさわるような 気持ちになること	よくある	0		0	
	時々ある	0		2	5.7
	ほとんどない	20	57.1	13	37.1
	全くない	13	37.1	20	57.1
31. 規則正しい生活をおくっ ているか	非常に規則正しい	4	11.4	1	2.8
	だいたい規則正しい	25		24	68.6
	あまり規則正しくない	5	14.3	8	22.9
	全く不規則	1	2.8	2	5.7
32. 生活の充実感	非常にある	10	28.6	9	25.7
	まあまあある	20	57.1	24	68.6
	あまりない	5	14.3	2	5.7
	全くない	0			

質問項目	問題行動経験の有無 回 答	問題行動を経験した 子どもの父親		問題行動を経験して いない子どもの父親	
		人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
33. 生きがいの対象	妻	2	5.7		
	子ども	16	45.7	16	45.7
	自分の趣味	4	11.4	4	11.4
	家事	2	5.7	0	
	仕事	6	17.1	11	31.4
	その他	3	8.6	0	
	生きがいがない	0		0	
	子ども含む	1	2.8	3	8.6
37. しつけについての自信	子ども含まない	0		0	
	大いにある	1	2.8	3	8.6
	だいたいある	20	57.1	29	82.9
	あまりない	13	37.1	3	8.6
38. しつけについて甘いかどうか	全くない	0			
	大変甘い	2	5.7	1	2.8
	だいたい甘い	16	45.7	18	51.4
	あまり甘くない	13	37.1	12	34.3
39. 世話をよくしているか	きびしい	4	11.4	4	11.4
	大変よくしている	3	8.6	2	5.7
	だいたいしている	14	40	9	25.7
	あまりしていない	14	40	18	51.4
40. 子どもからどのように思われているか	ほとんどしていない	4	11.4	4	11.4
	大変信頼されている	5	14.3	4	11.4
	だいたい信頼されている	20	57.1	28	80
	あまり信頼されていない	9	25.9	0	
	全く信頼されていない	0		1	2.8

表11の比較によると問題行動を経験した子どもの父親と問題行動を経験していない子どもの父親との養育態度・行動において大きな差が認められるのは「しつけについての自信」のみであり、他の項目については若干の相違は認められるものの特別な意味は考えられない。この点で父親の場合は養育態度・行動についての多くの項目でかなりの相違がある母親の場合と大きく異なっている。

次に、上掲の問題行動を経験した35名の子どものうちからさらにほとんどすべての問題行動を経験している12,14,29,34番の4名を取り出して父親の養育態度・行動について調べてみると、その態度がほとんど一般の子どもの親と変わらず、むしろ悠然としていると思えるところがあるのに驚かざるをえない。たとえば、子どもがこれだけの問題行動に走っていても「しつけについての自信」について1人の父親は「おおいにある」、2人が「だいたいある」、残る1人が「あまりない」と答えているのである。さらに「子どもから信頼されている」かどうかの自己評価は1人が「大変信頼されている」、残る3人が「だいたい信頼されている」と答えている。

この子どもたちに親にだまって外泊し、万引きをやり、先生をなぐり、無免許運転をし、暴走行為をし、親に隠れて酒やたばこを飲んだことがあるのである。

このように我が子の問題行動にあたかも気づいていないかのような養育態度・行動は、上に述べた最悪のケースを経験している4名の子どもの父親に限ったことはなく、表11で比較したとおり、問題行動を経験した子どもの父親全体についても指摘できるところがある。

3 子どもの行動と母親の養育行動の類型

中学生をもつ福岡県の母親の養育態度・行動の特徴については、基本的には父親の場合とまったく変わるところがない。したがって、本節ではこれの説明を繰り返さず、直接子どもの行動と母親の養育行動との関係について見ていくことにする。

(1) 母親の養育態度・行動の類型の特徴

図－6は各類型に属する母親の養育態度・行動の特徴を示したものである。これを説明すると次のとおりである。

ア 第1の類型（子育てについて自信があって、かつ子どもとの交流に積極的な型）

この類型の母親は、子どもが自分ですべきことには手を出さず、言葉づかいが乱暴だったり、自分勝手な行動に対してはきちんと注意をし、手伝いも週3～4回させている。また子どものこづかいの使い方も知っている。子どもの気持ちがわからずとまどったり、子どもに対してはれものにさわるような気持ちで接することもない。むしろ、子どもから信頼されているという気持ちを持ち、しつけには自信をもっている。

イ 第2の類型（子育てについて自信はあるけれども子どもとの交流に消極的な型）

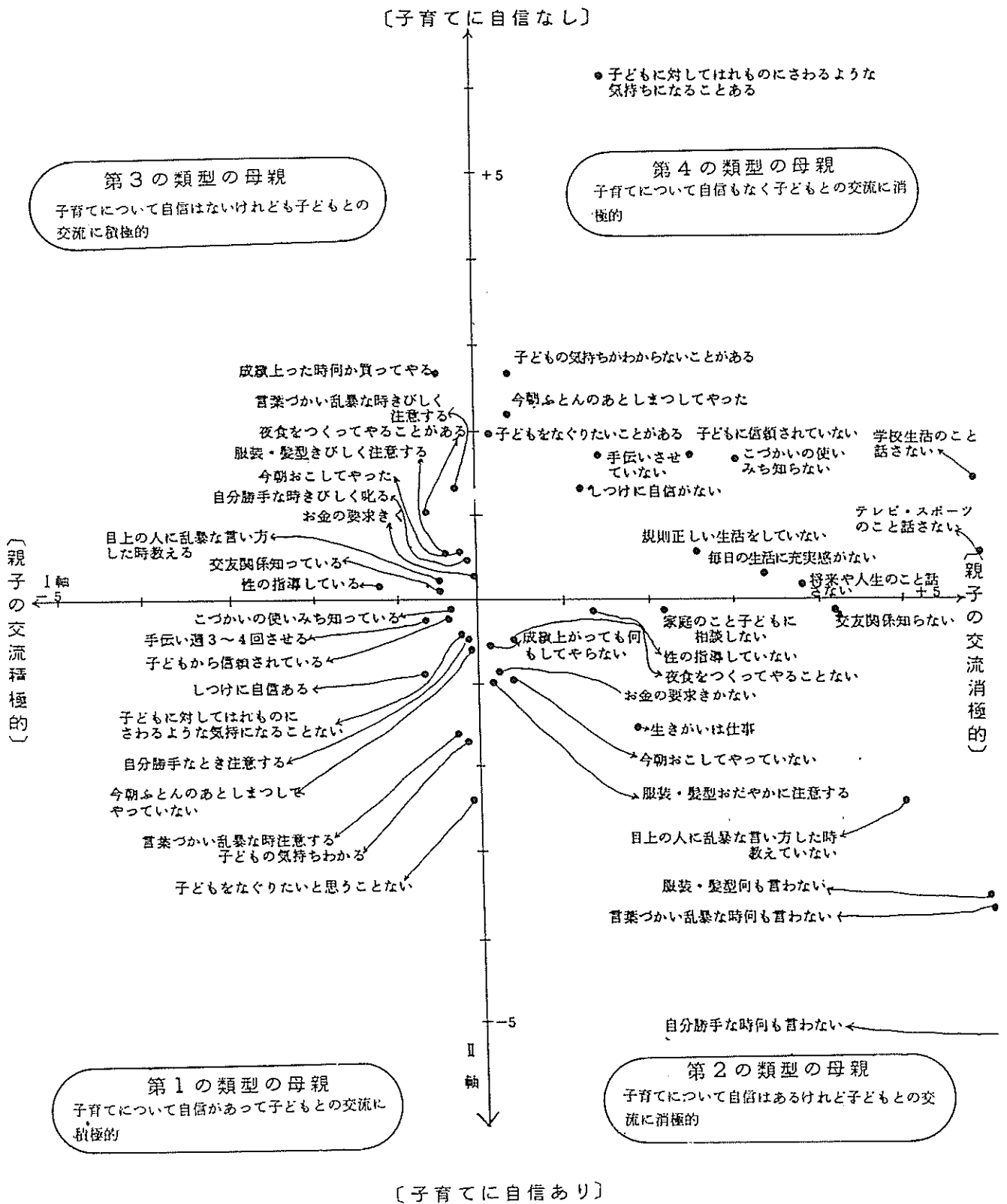
この類型の母親は、朝、子どもを起こしたり、夜食をつくってやったりせず、子どもの要求に応じて安易にお金を与えることもなく、また成績が上がったからといって何かを買ってやるというような、過保護な行動もとっていない。しかし、子どもが好ましくない行動、例えば自分勝手なことを言ったり、言葉づかいが乱暴でも、注意を与えることもしない。子どもの交友関係についても知らず、子どもとのコミュニケーションにも欠け、性や言葉づかいについての指導もしていない。

要するに父親の場合と同様、子どもにあまりかまわない傾向がみられるのである。生きがいは子ども以外のもの、すなわち仕事があげられている。

ウ 第3の類型（子育てについて自信はないけれども子どもとの交流に積極的な型）

この類型の母親は、朝、子どもを起こしてやったり、夜食を作ってやったり、子どもが月々のこづかいの他にお金を要求すればきいてやったり、成績が上がれば特別のほうびを買ってやるというように世話や要求に対して過保護な行動傾向にある。しかしその一方で、子どもが親に対して乱暴な言い方をしたり、自分勝手なことを言ったり、服装や髪型が好ましくない場合、厳しく注意し、さらには性や言葉づかいについては積極的な指導を行っているという特徴がある。子どもの交友関係も知っている。

図-6 母親の養育態度・行動の類型



エ 第4の類型（子育てについて自信もなく子どもの交流に消極的な型）

この類型の母親は、子どもの世話はしているが、学校生活や将来のことなどについて子どもと話すことがなく、こづかいの使いみちも把握していない。手伝いもさせていない。子どもの気持ちかわからず、はれものにさわるような気持ちで接し、時には子どもをなぐりたい衝動にかられる。そして子どもから信頼されているとは思っておらず、子育てに自信を失っている。他方、自分自身の生活についても生活は不規則で充実感が乏しい。

（2）子どもの問題行動と母親の養育行動の類型

従来から、子どもの行動・性格は親の養育の仕方と密接な関係にあることが知られている。そこでここでは子どものいくつかの問題行動を取り上げ、それを母親の養育行動の類型との関係で検討してみたい。もちろん、両者に一定の関係が存在したとしても、即、特定の養育類型が中学生の特定の問題行動の原因であると結論づけることはできない。

それは、ある時点での子どもの行動・性格はあくまでも発達初期から、長期間にわたる親と子の相互作用の結果にはかならないからである。しかしながら、それでもなお一定の関係が認められるとすれば、今後望ましい子育てのあり方を考えていくうえで大きな示唆を与えてくれることになる。

ア 母親に対する信頼度、小学校および現在の家の手伝いの程度、将来や人生についての親との話合いの度合いと母親の養育行動の類型との関係

図-7によると、子どもに信頼され、子どもが将来や人生について親と話しているのは第1の類型の母親の場合である。また、小学時代から現在にかけて家の手伝いをよくしているのも第1の類型においてである。反対に子どもがまったく母親を信頼せず、将来や人生について話すこともなく、家の手伝いも小学校時代から一貫してまったくしていないのは第4の類型の母親においてである。

イ 無断外泊、家出、無免許運転、万引きと母親の養育行動の類型との関係

この場合も前記アと同様の結果が認められる。すなわち、これらの問題行動を経験していない子どもは第1の類型の母親に集中し、逆に体験している子どもは第4の類型の母親に集中しているのである。（図-8）

ウ 喫煙、飲酒、ゲームセンター通いと母親の養育行動の類型との関係

図-9から明らかなように、この場合も問題行動を経験した子どもは第4の類型の母親に集中し、まったく経験していない子どもは第1の類型の母親に集中しているのである。

図-7 子どもの母親に対する信頼度、小学校時代および現在の家の手伝いの程度、
将来や人生についての親との話合いの度合いと母親の養育態度・行動との関係
($\times 10^{-2}$)

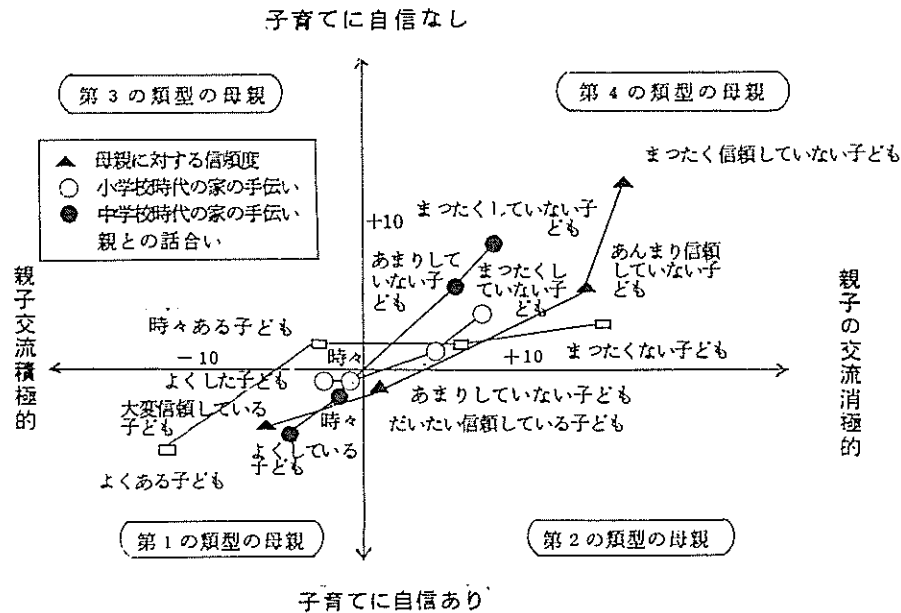
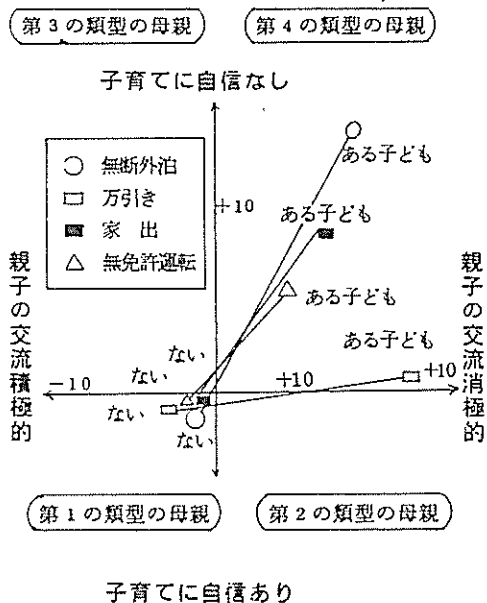


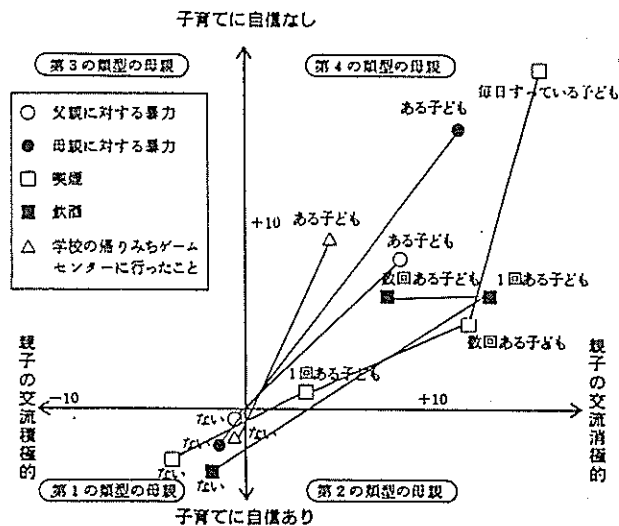
図-8 問題行動を経験した子どもと母親
の養育態度・行動の関係 ($\times 10^{-2}$)



母親の養育態度・行動の類型の特徴

第3の類型の母親 子育てについて自信はないけれど、子どもとの交流に積極的 - 子どもの世話や要求に過保護の傾向がある - 子どもの好ましくない行動に注意する - 子どもの交友関係知っている	第4の類型の母親 子育てについて自信もなく、子どもとの交流に消極的 - しつかに自信がない - 子どもに信頼されていないと思っている - 子どもとの対話がない - 子どもの気持ちがいからない - 子どもをなぐりたいと思うことがある - 自分自身の生活に充実感を抱いていない
第1の類型の母親 子育てについて自信があって、子どもとの交流に積極的 - 子どもの気持ちよくわかる - 子どもの好ましくない行動に注意する - しつかに自信がある - 子どもから信頼されていると思っている - 子どもが自分ですべきことには手を出さない	第2の類型の母親 子育てについて自信はあるけれど、子どもとの交流に消極的 - 子どもの好ましくない行動に注意しない - 子どものことあまりかわわない - 子どもの交友関係知らない - 生きがいは仕事

図-9 問題行動を経験した子どもと母親の養育態度・行動の関係 ($\times 10^{-2}$)



母親の養育態度・行動の類型の特徴

第3の類型の母親	第4の類型の母親
〔子育てについて自信はないけれど、子どもとの交流に積極的〕 ・子どもの世話や要求に過保護的傾向がある ・子どもの好ましくない行動に注意する ・子どもの交友関係について	〔子育てについて自信もなく、子どもとの交流に消極的〕 ・しつめに自信がない ・子どもに信頼されていないと思っている ・子どもとの対話がない ・子どもの気持ちかわからない ・子どもをなぐりたいと思うことがある ・自分自身の生活に充実感を抱いていない
第1の類型の母親	第2の類型の母親
〔子育てについて自信があるって、子どもとの交流に積極的〕 ・子どもの気持ちよくわかる ・子どもの好ましくない行動に注意する ・子どもから信頼されていると思っている ・子どもが自分ですべきことには手を出さない	〔子育てについて自信はあるけれど、子どもとの交流に消極的〕 ・子どもの好ましくない行動に注意しない ・子どものことあまりかまわない ・子どもの交友関係知らない ・生きがいは仕事

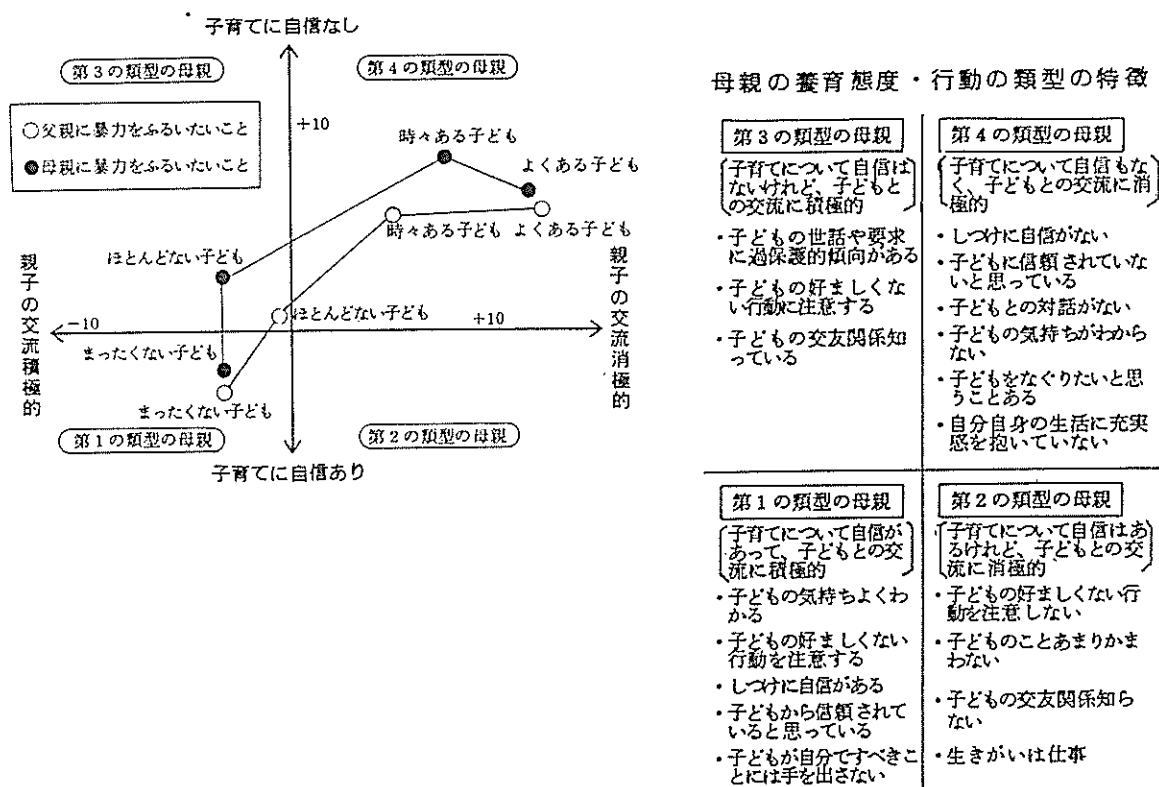
オ 両親に対して暴力をふるいたいと思う程度と母親の養育行動の類型との関係

これまで見てきた問題行動の場合と同様、父親や母親に暴力をふるいたい気持ちが「よくある」という子どもは第4の類型の母親に多く現われている。一方そうした気持ちがない子どものうち「ほとんどない」が第3の類型の母親にみられるものの、「まったくない」子どもはやはり第1の類型の母親に多いのである(図-10)。

以上、子どもの問題行動を四つのカテゴリー回答に分け、母親の養育行動の類型との関係を見てきた。これらの関係の分析から次のことが言える。

第1は、父親の場合と異なり、子どもの問題行動と母親の養育行動の類型の関係は極めて明白である。第2に、子どもにとって最も望ましいと考えられる母親の養育行動の類型は第1の類型であり、これは父親の場合と一致している。第3に子どもにとって最も望ましくないと考えられる母親の類型は第4の類型である。

図-10 両親に対して暴力をふるいたいと思う程度と母親の養育態度・行動の関係
($\times 10^{-2}$)



(3) 問題行動を経験した子どもの母親と問題行動を経験していない子どもの母親との養育態度・行動の比較

前項では子どもの問題行動と母親の養育行動の類型の関係を考察した。ここではさらに問題行動を経験した子どもの母親と、していない子どもの母親とでは、その養育態度・行動にどのような違いがあるのかを明らかにしてみたい。

方法は父親の場合と同様である。すなわち、本調査の結果から問題行動を経験した子どものうち、特にその程度の著しい子ども（生徒用質問紙、質問46の中の13項目の問題行動のうち6項目以上に経験したと回答した子ども）と、まったく問題行動を経験していない子ども（生徒用質問紙、質問46の中の13項目の問題行動をまったく経験がないと回答した子ども）それぞれ35名を抽出し、両群の母親の養育態度・行動を比較した。対象者が少ないため、示された個々の数値の信頼性は必ずしも高いとは言えない。しかし、同一領域の質問項目の回答の多くにおいて、両群に一貫した差がみられるとすれば、それはある程度一般的な傾向を示唆するものと理解して差しつかえないであろう。

そこで質問項目別に問題行動を経験した子どもの母親と、していない子どもの母親の養育態度・行動を比較してみると、明らかに両者に異なった傾向が認められた。すなわち、前者は後者に比

べて次のことが言えるのである。

- ① 子どもが本来自分ですべき身のこたまで世話をしてやる傾向が強い。
- ② 安易に物を与えたり、子どもの要求を受け入れてやる傾向が強い。
- ③ 子どもの望ましくない行動に対して必要な注意・叱責をしていない傾向が強い。
- ④ 親子で話しをすることが少ない傾向にある。
- ⑤ 子どもの生活・行動をよく把握していない傾向がある。
- ⑥ 子どもを生きがいにしている傾向が強い。
- ⑦ 子どもの気持ちがわからず、とまどっている傾向が強い。
- ⑧ 自分の行っているしつけを正しく自己評価していない傾向がある。

以下ではこれらの結果をもう少し詳しくみてみることにしたい。

ア 子どもに対する世話

子育ての目標は、わが子が将来一人立ちし、立派な社会人として力強く生きていくことができるよう、心と体のいわば土台を築いてやることである。そのためには、まず身のこたがら、例えば朝起き、洗顔、自分の寝たふとんの後始末など、自分のことは自分でする子どもに育てておかねばならない。

図-11 あなたは今朝お子さんのふとんをたたんだり、押入れにあげたり（ベッドの場合は後始末）してやりましたか。

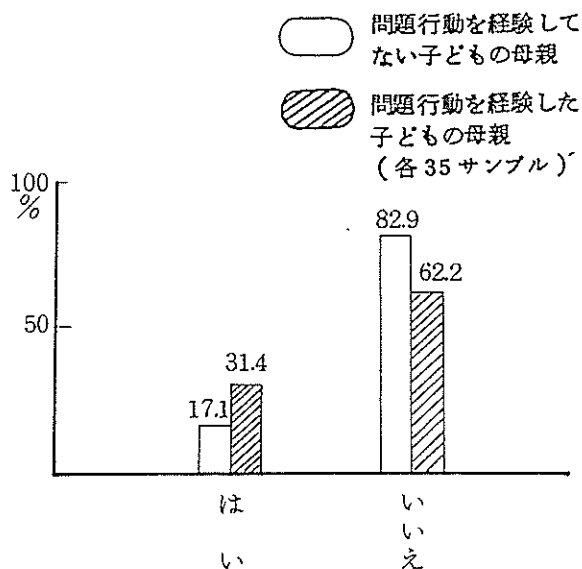
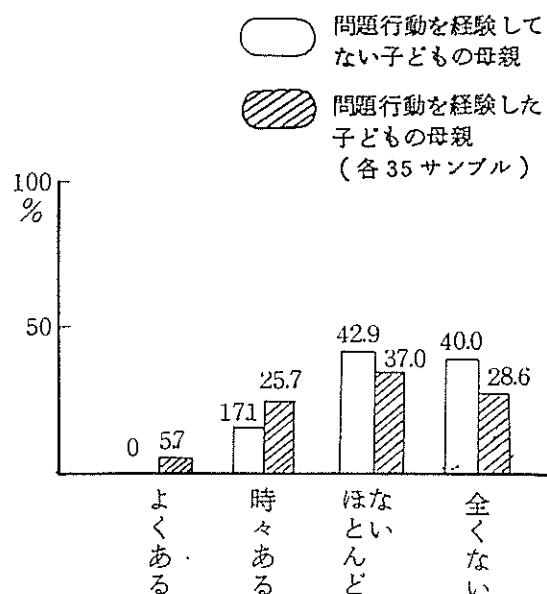


図-12 あなたはお子さんの成績が上がった場合、日頃欲しがっている物を買ってやったり、おこずかいをあげたりすることがありますか。



こうした基本的生活習慣の多くは親が子どもを正しくしつけておけば、幼児期の終わらないし遅くとも小学校低学年まで自分でできるようになるものである。ところが、問題行動を経験した子どもの母親では、明らかにこうしたことを子どもが中学生になってもしてやる、過保護な傾向が強い。例えば図-11は子どものふとんの後始末をしてやっている母親の割合を比較したものである。これによると問題行動を経験した子どもの母親は、問題行動を経験していない子どもの母親に比べ「はい」と回答している割合が14.3%も高くなっている。

イ 授与・受容

子どもに物やお金を安易に与えたり、子どもの要求をよく考えもせず受け入れたりするのは、子どもの発達上決して望ましいことではない。それは子どもの欲求を肥大化させ、耐性の形成を阻むばかりでなく、物や金銭のありがたさを忘れさせ、さらには与えてくれている親への感謝の気持ちさえ失わせてしまうからである。

ところが、問題行動を経験した子どもの母親では、月々のこずかい以外にも子どもが要求すればお金を与えたり、子どもの成績があがれば日頃欲しがっていた物を買ってやる傾向が明らかに強い。図-12は子どもの成績があがった場合、日頃欲しがっていた物を買ってやる母親の割合を比較したものである。これによると、問題行動を経験していない子どもの母親では「よくある」、「時々ある」を合わせて17.1%であるのに対して、問題行動を経験した母親では31.4%となっている。

ウ 注意・叱責

著名な精神分析学者フロイト(Freud, S.)が述べているように、子どもの心の本質は「衝動のかたまり」である。このことは幼い子どもについてだけでなく、発達過程にある中学生についてもなお言えることである。そのため中学生になっても欲求や感情のままに好ましくない行動や言動をとることが少なくない。

そうした場合、子どもに人としてのルールを身につけさせるには、親として注意すべきことは毅然と注意し、叱るべきことはきちんと叱ることが必要である。ところが問題行動を経験した子どもの母親では、子どもの言葉づかいが乱暴だったり、卑猥なことを言ったり、親に反抗的態度をとったり、自分の使ったものの後始末をしなかったりしても、きちんとしつけを行っていない傾向が強いのである。

例えば、親に反抗的な態度をとったり、後始末をほうっている場合のしつけの状態をみると図-13、図-14のようになる。明らかに問題行動を経験した子ども達の母親と問題行動を経験していない母親の間には対応の違いのあることがわかるであろう。

図-13 あなたは、お子さんがたいして理由もないのに口答えしたり、反抗的態度をとった場合、どのように対処しますか。

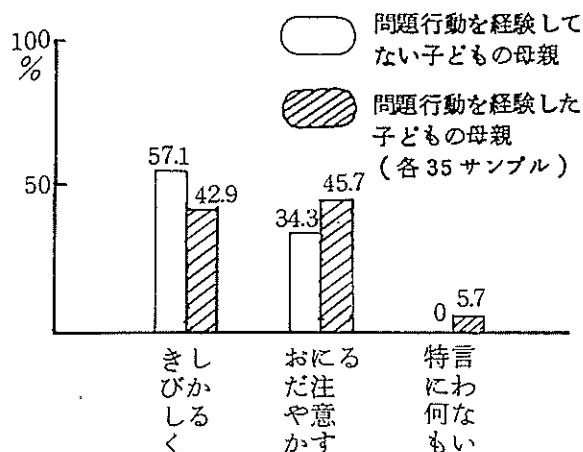
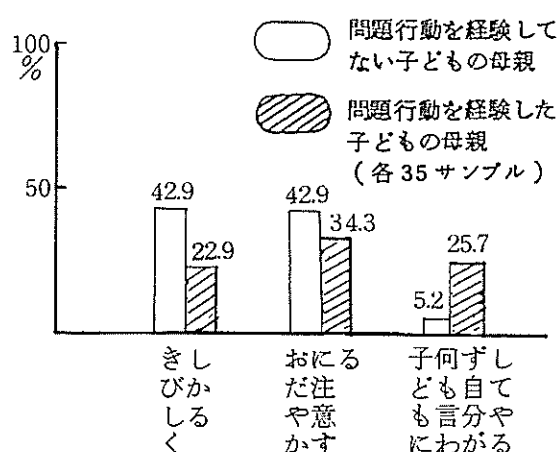


図-14 あなたは、お子さんが自分の使ったものの後始末をしなかった場合、どのように対処していますか。



エ 子どもとの対話

最近是一般に親子の対話が少なく、とりわけ非行体験をもつ子どもの家庭においてはその傾向が強いと言われている。本調査の結果もこのことを裏づけるものであった。

問題行動を経験した子どもの母親と、経験していない子どもの母親とでは、明らかに傾向の違いがあらわれている。すなわち、前者の母親では、テレビ、映画、スポーツなどの娯楽や、将来や人生、学校生活、あるいは性などについて子どもと話している者の割合が後者よりかなり低くなっているのである。図-15は学校生活についての対話の実態を比較したものである。

オ 子どもの生活・行動の把握

中学生の段階に入ると、子どもの心身の発達はかなりの水準に達する。しかしながら、ものの考え方は、「感情の論理」と言われるように主観的で感情にいろどられ未熟である。感情も「嵐の時代」といわれるようにコントロールが難しく、起伏が激しい。しかも社会的経験はまだ十分でない。

このため、中学生はちょっとしたきっかけで問題行動を起こすことも珍しくないのである。そこで親としては子どもの生活・行動については小学生に対するほどではないとしても、ある程度知っていることが望まれる。ところが、問題行動を経験した子どもの母親は、そうでない子どもの母親に比べて子どもの生活・行動をよく把握していない傾向がある。

図-16、図-17は子どものこづかいの使い方と友だち関係についての把握の状態を比較したものである。こづかいの使い方を「よく知っている」母親についてみると、問題行動を経験していない子どもの母親では40.0%であるのに対して、問題行動を経験した母親では14.3%、すなわち前者の3分の1程度にすぎない。

図-15 あなたは、お子さんと学校生活のこと（例えば、授業のこと・クラブのこと・先生のこと・友だちのこと・学校行事のことなど）について話すことがありますか。

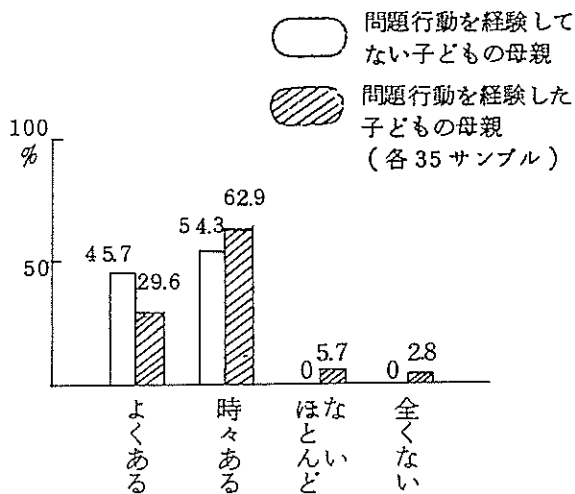


図-16 あなたは、お子さんがおこづかいをどのように使っているか知っていますか。

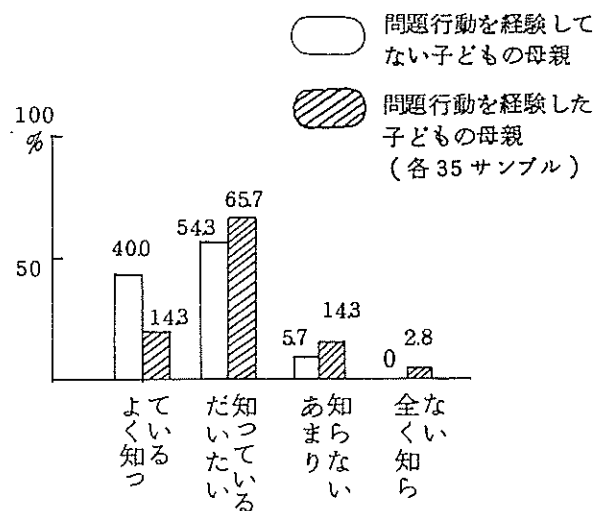


図-17 あなたは、お子さんの交友関係について知っていますか。

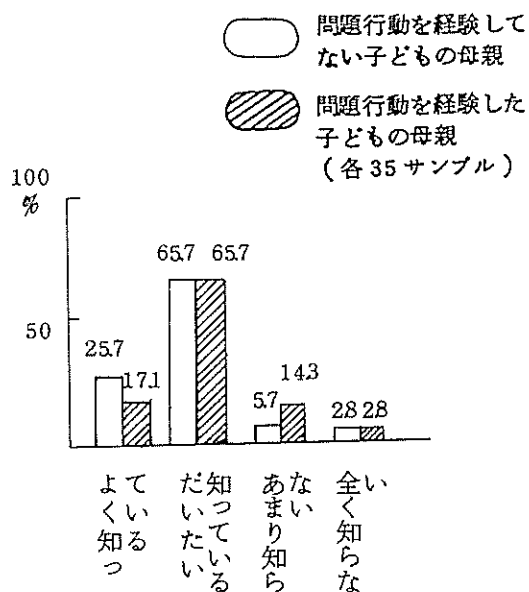
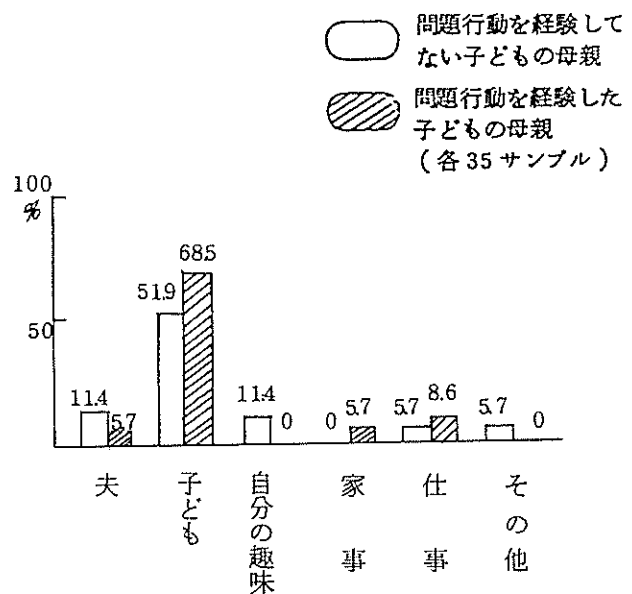


図-18 あなたの生きがいの対象は何ですか。



カ 生きがい

一般に人が何に対して生きがいをもっているかは、その人の行動の仕方を規定する面が少なくないと思われる。では、問題行動を経験した子どもの母親は、何に対して生きがいを感じているのであろうか。問題行動を経験していない子どもの母親と違いがあるのだろうか。

図-18はこのことを調べたものである。これによるとまず両群とも子どもを生きがいとしている者が極立って多いことがわかる。しかし両群の比較では前者、すなわち問題行動を経験した子どもの母親のほうが子どもを生きがいとしている割合が顕著に高い。このことは、問題行動を経験した母親のほうが自分ですべきことまで世話をしやったり、安易に子どもの要求を受け入れてやるなど、過保護な養育行動をとる傾向が強いという、先に述べた事実と深くかかわっていると思われる。

キ 子どもに対する意識

図-19、図-20は、子どもに対する母親の意識を比較したものである。これによると問題行動を経験した子どもの母親のほうが子どもの気持ちがわからず、とまどったり、さらには子どもをなぐりたいと思ったりする者が明らかに多いことがわかる。例えば、「あなたはお子さんに対して腹が立ちなぐりたいと思ったことがありますか」という質問に対して、問題行動を経験した子どもの母親では「よくある」、「時々ある」を合わせ68.6%があると回答している。ところが問題行動を経験していない母親では39.9%で、前者に比べ30%近くも低くなっているのである。

図-19 あなたは、お子さんが何を考えているのか、その気持ちがわからずとまどうことがありますか。

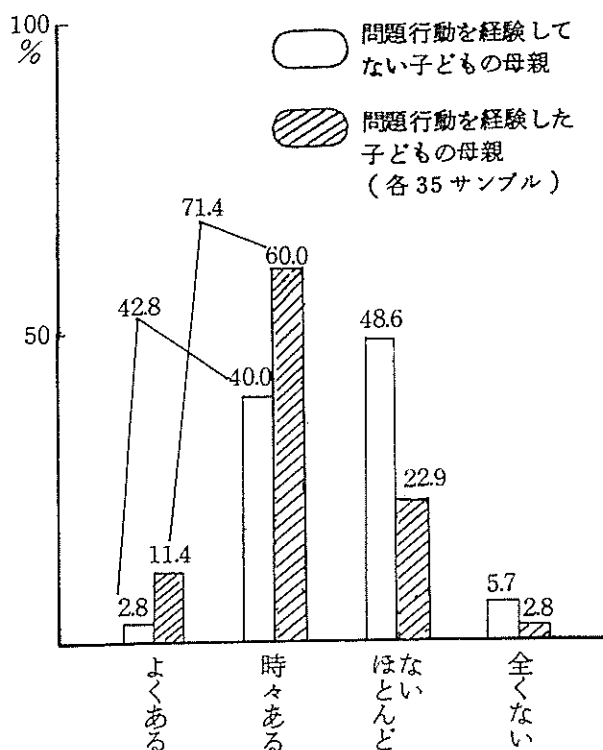
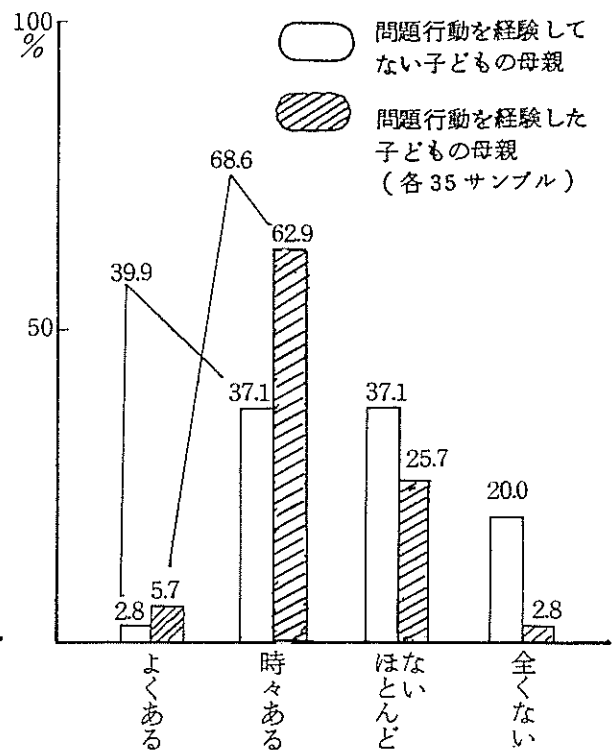


図-20 あなたは、お子さんに対して腹が立ち、なぐりたいと思うことがありますか。



ク しつけに対する自己評価

問題行動を経験した子どもの母親としていない子どもの母親とではこの点に関してもかなりの違いが見られる。

例えば、しつけの自信について、問題行動を経験していない子どもの母親では「大いにある」、「だいたいある」を合わせ、「ある」が71.4%を占めている。これに対して、問題行動を経験した子どもの母親では「大いにある」はまったく回答者がなく、「だいたいある」が48.6%で、「ある」の割合は前者に比べてかなり低くなっている（図-21）。

しかしながら特に注目すべきことは、わが子が問題行動を経験している子どもであるにもかかわらず、なお多くの母親がしつけには自信があると自己評価している点である。同様の傾向はしつけの甘さや世話の程度、さらにはわが子が自分をどう見ているかということについての評価でも指摘することができる。すなわち、しつけの甘さや世話の程度について見れば、問題行動を経験した子どもの親はすでにみてきたように概して過保護な傾向が強い。ところが、しつけの甘さについては問題行動を経験した子どもの母親の50%弱（図-22）が「あまり甘くない」、「きびしい」と回答し、世話の程度については25.7%（図-23）つまり、4人に1人は「あまりしていない」と回答しているのである。

また、子どもからどう思われているかということについては、実に85.7%（図-24）「大変信頼されている」、「だいたい信頼されている」と回答している。

これらの結果を総合して言えることは、問題行動を経験した子どもの母親は自己のしつけを適切に評価していない傾向があるということである。この傾向は、すでに父親の項で述べた事実とよく一致している。

図-21 あなたは、お子さんのしつけについて自信がありますか。

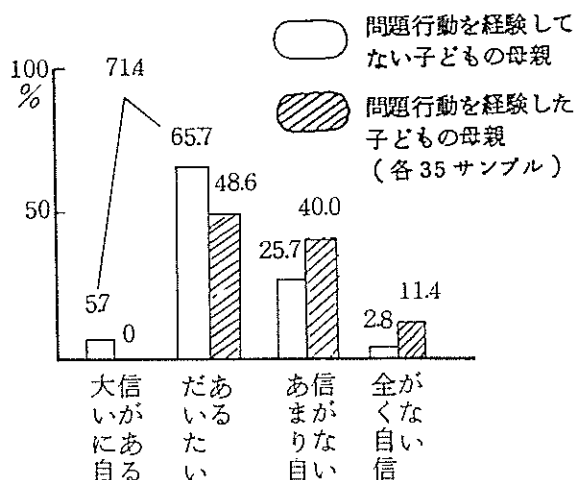


図-22 あなたは、お子さんのしつけについて甘いほうだと思いますか。

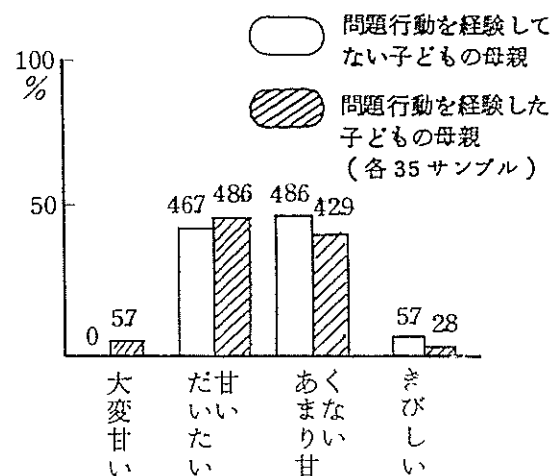


図-23 あなたは、お子さんの世話をよく
しているほうだと思いますか。

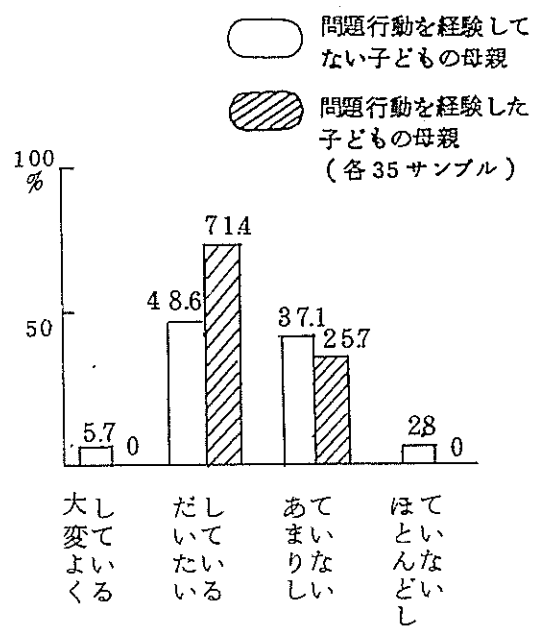
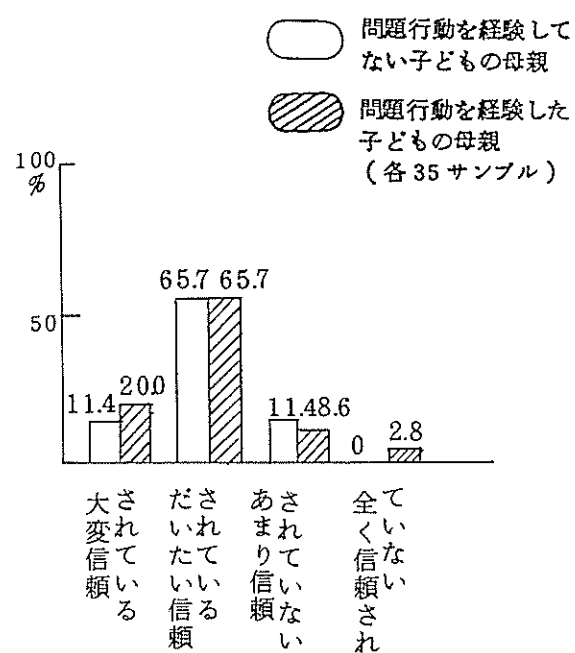


図-24 あなたは、お子さんからどのよう
に思われていると思いますか。



4 まとめ

本章の目的は、父親、母親それぞれの養育行動と子どもの行動の関係を明らかにすることであった。そこで、まず父親、母親の養育行動の類型化が「子育てについての自信の度合い」と「親子の交流の度合い」という二つの軸に基づいて行った。

その結果、四つの類型が抽出された。すなわち、子育てに自信があって、しかも子どもとの交流に積極的な第1の類型、子育てについて自信はあるけれども子どもとの交流に消極的な第2の類型、子育てについて自信はないけれども子どもとの交流に積極的な第3の類型、子育てについての自信はなく、子どもとの交流に消極的な第4の類型である。

次に、これら四つの類型と子どもの問題行動との関係を父親、母親それぞれについて検討した。その結果、父親の場合も、母親の場合も第1の類型では子どもはほとんど問題行動をおこしていないという事実が明らかになった。これに対し、問題行動を経験した子どもは、父親の場合、その養育行動が主として第4の類型、若干の項目では第3の類型にあらわれている。他方、母親の場合は第4の類型に集中していることが明らかになった。

さらに本章では、この結果を補足する意味で、様々な問題行動を経験した子どもと全く問題行動を起こしたことのない子どもを一定数抽出し、その両親の養育行動を比較してみた。その結果、父親では問題行動を経験した子どもの親のほうが子育てに自信がなく、一部に「過保護一部放任」傾向は見られたものの両群に大きな差は認められなかった。これに対して、母親の場合は、問題行動を経験した子どもの親のほうが明らかに、子育てに自信がなく、子どもとの交流も少なく、しかも「過保護一部放任」の傾向が強く見られた。すなわち、

- ① 子どもが自分でできることまで世話をしている。
- ② 安易に物やお金を与えている。
- ③ 注意すべきことを注意していない。
- ④ 教えるべきことを教えていない。
- ⑤ 子どもの行動をよく把握していない。

などの傾向が認められたのである。

以上の結果から、結論として父親・母親とももっとも望ましい養育行動の類型は第1の類型であり、望ましくない類型は第4の類型であると言える。

Ⅲ 結 論 と 今 後 の 課 題

昭和57年度家庭教育総合セミナー事業報告書（その1）では、生徒用（中学生の生活実態についてのアンケート）と両親用（中学生のしつけについてのアンケート）で調査した結果について、両者並列の形式で考察し、本報告書の調査の目的のところで述べているような実態を明らかにした。

今回は、親の養育行動を類型化するとともに、これらの類型が子どもの行動や態度といかなる関係をもつかについて分析した。結果について要約すると次のとおりである。

1 親の養育行動の類型

親の養育行動を数量化理論第三類という解析手法を用いて分析した結果、二つの軸が抽出され、Ⅰ軸は「親子の交流が積極的か消極的か」を示し、Ⅱ軸は「子育てについて自信があるかないか」を示すと考えられた。これらの軸の組合せから、親の養育行動を次の四つに類型化した。なお、これらの類型は父親の場合も母親の場合もほぼ同じ結果であった。

◎ 第1の類型（子育てについて自信があって、子どもとの交流に積極的な型）

このタイプの親は、子どもの行動や態度等が好ましくないときはきちんと注意し、学校生活やテレビ、スポーツの話題、将来のこと等について子どもと日頃よく話をしており、子どもの交友関係やこづかいの使いみち等比較的よく知っている、といった特徴がみられる。

◎ 第2の類型（子育てについて自信はあるけれど、子どもとの交流に消極的な型）

このタイプの親は、子どもの素行が好ましくなくても注意せず、日頃の手伝いもさせることがない。また、子どもの要求を安易に受け入れない等、要するに子どもにはあまりかまわないといった傾向がある。

◎ 第3の類型（子育てについて自信はないけれど、子どもとの交流に積極的な型）

このタイプの親は、子どもの行動についていらいらしながらも遠慮している傾向があり、一方手伝いもよくさせる等、子どもの世話はかなりよくやっている。また、成績が上がったときには何かほろびを買ってやるといった他の類型にはみられない特徴がある。

◎ 第4の類型（子育てについて自信もなく、子どもとの交流に消極的な型）

このタイプの親は、第1のタイプの親の場合と逆であり、子どもとの対話もなく、子どもの友人関係やこづかいの使いみちについても知らないという特徴がみられる。

2 子どもの行動・態度と父親の養育行動との関係

子どもの行動や態度と父親の養育行動の類型をクロスさせてその関係を分析した結果、次のような点が明らかになった。

- 無断外泊をしたり、先生をなぐったり、万引きをしたりしたことのある子どもは、父親の養育行動が第4のタイプの父親が多い。
- 家出や無免許運転の経験のある子どもは、父親が第3のタイプの父親が多い。
- 両親に暴力をふるうような子どもの父親は、第4のタイプに入り子育ての自信のなさも甚だし、子どもとの交流もほとんど放任的である。
- 喫煙や飲酒の経験については必ずしも父親の養育行動のタイプを特定できないが、この種の問題行動をおこす子どもは父親が第4あるいは第3のタイプに多い。
- 自主性のある子どもは父親が第1のタイプに多く、逆に自主性のない子どもは父親が第4のタイプに多い。
- 子どもに対する接し方が甘い父親は第4のタイプに多く、接し方が厳しい父親は第3のタイプに多い。
- 学校での仕事をさぼるような子どもは、父親が第3のタイプに最も多く、次いで第4のタイプに多い。
- 子どもが信頼しているのは第1のタイプの父親であり、まったく信頼していないのは第3のタイプの父親である。
- 小学校時代の手伝いの状況は、まったくしたことのない子どもは父親が第4のタイプに多く、続いて第2、第1、第3のタイプの順で手伝いをする割合が増している。
- 将来のことや人生のことについて日頃子どもとよく話し合っている父親は第1のタイプに多く、逆にまったく話をしないというのは第4のタイプに多い。

以上のことから、最も望ましいと考えられる父親の養育行動は第1のタイプであり、最も問題が多いと考えられるのは第4のタイプである。第3のタイプの父親は、子どもへの関心が高く世話もよくするが、子育ての自信のなさがときに子どもの問題行動につながっているようである。第2のタイプの父親の場合は、子どもの行動や態度に特に問題はないが、子育てに成功しているとは言えない。

3 子どもの問題行動と父親の養育行動

問題行動を体験した子どもの父親とそうでない子どもの父親を比較したが、その結果「しつけについての自信」についての差がみられた他は、両者の養育行動に傾向の差は認められなかった。しかし、子どもが問題行動をおこしているにもかかわらず父親がこれに気づいていないことや問題行動を体験した父親が自分の養育行動は問題行動をおこしていない父親と変わらないと評価しているところに問題があるのではなかろうか。

4 子どもの行動・態度と母親の養育行動との関係

母親についても父親の場合と同様に子どもの行動や態度と母親の養育行動との関係を分析した。結果は、次に示すとおりである。

- 養育行動が第1の類型の母親の場合、子どもに信頼され、将来のことや人生について子どもとよく話をしており、子どもは小学校時代から家の手伝いもよくしている。
- 子どもが母親を信頼せず将来や人生について話合うこともなく、家の手伝いも一貫していないのは第4の類型の母親においてである。
- 無断外泊や家出、無免許運転、万引き等の問題行動を経験している子どもは第4の類型、経験していない子どもは第1の類型の母親に集中している。
- 喫煙や飲酒、ゲームセンター通いの経験のある子どもは第4の類型の母親、まったく経験のない子どもは第1の類型の母親に集中している。
- 両親に対して暴力をふるいたい気持ちがあるという子どもは第4の類型の母親に、まったくないという子どもは第1の類型の母親に多い。

以上のことから、子どもの行動や態度と母親の養育行動との関係は、父親の場合より極めて明白であり、子どもにとって最も望ましいと考えられる母親の養育行動は第1の類型であり、反対に望ましくないのは第4の類型だといえる。

5 子どもの問題行動と母親の養育行動

問題行動を経験した子どもの母親と経験していない子どもの母親の養育行動を比較したが、前者は後者に比べて次のような傾向がみられた。

- 安易に物を与えたり、子どもの要求を受け入れている。
- 子どもの望ましくない行動に対して必要な注意・叱責をしていない。
- 親子で話をすることが少ない。
- 子どもの生活・行動をよく把握していない。
- 子どもを生きがいの対象としている傾向が強い。
- 子どもの気持ちがわからずとまどったり、なぐりたいと思ったりする者が多い。
- 自分の行っているしつけを正しく評価していない。

いずれにせよ、問題行動を経験している子どもの母親の場合は、その養育行動が即、子どもにそのような問題行動をおこさせる原因であると結論づけることはできないにしても、問題があると言えることができる。

6 おわりに

ところで、子どもは一人ひとり独自の個性や素質をもっているばかりでなく、絶えず成長し変化している。そこで子どもの発達段階とそれに対応した発達課題を見極め、適切な指導・援助が必要となってくる。

中学生時代は、身体的にも精神的にも急速に変化して不安定であり、「思春期危機」とも呼ばれている時代であり、親の権威を疑い、親を含め周囲を批判するようになる。そして自分が無視されるような状況に出会うと激しく抵抗する。また反面自分の無力さや劣等感に悩む時期でもある。子どもの問題行動が増加し、その様相も複雑化して、家庭教育の在り方が改めて問われている昨今、親子の関係のゆがみ、いきずきを調整し、是正していくためには、具体的に親はどうすればよいか、その手がかりが緊急に求められている。

本報告書は、今後の望ましい家庭教育の在り方を探る一つの手がかりの基礎資料として、あらゆる機会に活用されることを切に願ってやまない。

IV 家庭教育総合セミナー事業の概要

1 趣 旨

現代社会において、次代を担う子どもたちを健全に育成していくことは重要な課題であります。なかでも、子どもたちの生活基盤である家庭は、子どもの成長発達に重要な役割をもつものと思われれます。

しかし、近年の社会構造の変化、とりわけ都市化現象による生活環境の変化、情報のはんらん、就労婦人の増加等は、新たに家庭教育に関する問題を生じているといえます。核家族化や少子化等による親の過保護や過干渉な養育態度・行動の状況もそのひとつの現われだと思います。

このような意味から、福岡県教育委員会では昭和54年度から5か年計画で当面する家庭教育に関する諸問題を具体的・実証的に調査研究し、今後の望ましい家庭教育のあり方を研究していくため「家庭教育総合セミナー事業」を実施してきました。

なお、「家庭教育総合セミナー事業」の推進は次の3事業で実施しています。

(1) 企画研究委員会の開催

学識経験者及び現場指導者等による委員会を構成し、家庭教育に係る諸問題について調査研究を行うとともに地域別家庭教育総合セミナーの企画や研究のまとめを行う。

(2) 地域別家庭教育総合セミナーの実施

企画研究委員会での調査研究結果をもとに、家庭教育に係る諸問題について広く意見を聞き、家庭教育のあり方についての啓発及び意識の高揚を図る。

(3) 資料の作成・配布

企画研究委員会での調査研究や、地域別家庭教育総合セミナーでの討議の結果を連携させ、望ましい家庭教育のあり方をめざす資料を作成し配布する。

2 事業の全体計画

家庭教育総合セミナー事業5か年計画は次のとおりです。

年 次(年度)	内 容
1 年 次 (54年 度)	・県内で過去5年間に実施された家庭教育に関する調査資料の調査研究 ・地域別家庭教育総合セミナーの実施 ・児童観に係るアンケート調査 ・報告書の作成・配布

年 次（年度）	内 容
2 年 次 （ 5 5 年度 ）	・小学生をもつ親を対象とした養育態度・行動についての調査研究 「子どものしつけについてのアンケート」調査 ・地域別家庭教育総合セミナーの実施 ・報告書の作成・配布
3 年 次 （ 5 6 年度 ）	・2年次の調査の分析・まとめ（継続） ・小学生をもつ親を対象とした養育態度・行動についての調査研究 ・地域別家庭教育総合セミナーの実施 ・家庭教育啓発資料「小学生をもつーあなたの子育てのために」の作成・配布 ・報告書の作成
4 年 次 （ 5 7 年度 ）	・中学生の意識・行動の実態及び中学生をもつ親の養育態度・行動についての調査研究「アンケート調査」の実施 ・地域別家庭教育総合セミナーの実施 ・家庭教育啓発資料「小学生をもつーあなたの子育てのために」の改訂版の作成・配布 ・報告書の作成・配布
5 年 次 （ 5 8 年度 ）	・4年次の調査の分析・まとめ（継続） ・中学生の意識・行動と親の養育態度・行動の関係についての調査研究 ・家庭教育啓発資料「中学生をもつーあなたの子育てのために」の作成・配布 ・報告書の作成・配布

昭和58年度企画研究委員名

(委員はアイウエオ…順)

	氏 名	所 属 ・ 役 職	専 門 分 野
委員長	岡 部 弘 道	九州大学健康科学センター教授	保 健 体 育 学
委 員	入 江 建 次	九州大谷短期大学助教授	臨 床 心 理 学
〃	古 味 堯 通	佐賀大学教授	教 育 学
〃	貞 光 康 子	福岡市青少年相談センター相談員	社会教育関係
〃	田 中 弘	福岡教育事務所 社会教育課長	社会教育関係
〃	秦 政 春	福岡教育大学講師	教 育 社 会 学
〃	松 本 恭 子	福岡市PTA協議会副会長	社会教育関係
〃	三 浦 清 一 郎	福岡教育大学助教授	社 会 教 育 学
〃	三 谷 勝 彌	那珂川町立岩戸北小学校長	学 校 教 育 関 係
〃	宮 原 和 子	近畿大学女子短期大学助教授	発 達 心 理 学
〃	村 田 勝 重	西日本新聞社記者	マ ス コ ミ 関 係
〃	横 山 正 幸	福岡教育大学助教授	児 童 心 理 学
〃	吉 田 充 三	福岡市立那珂中学校長	学 校 教 育 関 係

本調査で使⽤した質問紙

お⽗さん、お母さん⽤の封筒と生徒⽤を⼀緒に⼤封筒に入れて提出してください。

生徒 ⽤

中学生の⽣活実態についてのアンケート

名前を記⼊する必要はありません

記 記⼊の仕⽅についてお願い

- 各質問に対する答えは、回答項⽬のうちもっともあてはまるものの番号(1. 2. 3. など)を○でかこんでください。また()の中には番号や必要事項を記⼊してください。
- 次の欄に必要事項を記⼊してください。

あなたの学年・クラス	あなたの性別	きょうだいの中での位置
_____年	1. 男	1. ⼆⼈きょうだい
_____クラス	2. 女	2. _____人きょうだいの_____番⽬

問1 あなたは、今朝⾃分でふとん(ベッド)の整理をしましたか。

1. はい 2. いいえ

→ (1と答えた⼈へ)

問1) いつごろから⾃分⾃身でするようになりましたか。

1. ⼩学⼆年 2. ⼩学3年 3. ⼩学4年 4. ⼩学5年 5. ⼩学6年
6. 中学1年 7. 中学2年 8. 中学3年

問2 あなたは、遅刻をしますか。

1. まったくしない 2. 週1回くらいする 3. ひんぱんにする(週2〜3回) 4. 遅刻する⽇の方が多い

問3 家の⾷事の⽒、あなたは⾷事に⽂句を⾔ったり、好き嫌いで残したりすることがありますか。

1. よくある 2. 時々ある 3. まったくない

問4 お⽗さん、お母さん(家族の⼈)にもらうあなたのおこづかいは、⽉平均いくらですか。

1. まったくもらっていない 2. 500円以下 3. 501円〜1,000円 4. 1,001円〜1,500円
5. 1,501円〜2,000円 6. 2,001円〜2,500円 7. 2,501円〜3,000円 8. 3,001円〜3,500円
9. 3,501円以上(円)

問5 あなたは、これまでにアルバイトをしたことがありますか。

1. ある 2. ない

問6 あなたは、親(家族の⼈)からもらったおこづかいやアルバイトで得たお金を主として何に使いますか。3つあげてください。

1. () 2. () 3. ()

問7 あなたは、平均してテレビを1⽇どのくらい⾒ていますか。

1. まったく⾒ていない 2. 30分程度 3. 1時間 4. 1時間半 5. 2時間 6. 2時間半
7. 3時間 8. 3時間半 9. 4時間 10. 4時間半 11. 5時間 12. 5時間以上

問8 あなたは、ふだん家庭でどのくらい勉強しますか。

- 約()時間 ()分

問9 あなたは、試験の時家庭でどのくらい勉強しますか。

約()時間 ()分

問10 あなたは、ラジオの深夜放送をききますか。

1. よくきく 2. 時々きく 3. あまりきかない 4. 全々きかない

問11 あなたは、今学習塾に通ったり、家庭教師についたりしていますか。(おけいごとはのぞく)

学習塾に { 1. 通っている
2. 通っていない } 家庭教師に { 1. ついている
2. ついていない }

問12 あなたが、ふだん勉強するのはどうしてですか。もっともあてはまるものを1つえらんで○をつけてください。

1. よい成績をとりたから 2. よい学校やよい会社にはいりたいから 3. 人や社会の役に立ちたいから
4. いろいろなことを知りたいから 5. 学校でみんなについて行けないと困るから
6. 親を喜ばせたいから 7. 学校に行っているから 8. 親やまわりの人が勉強しろというから
9. 勉強や授業が面白いから 10. なんとなく
11. その他()

問13 あなたは、掃除当番やクラスの決められた仕事をどのようにしていますか。

1. まじめに責任をもってやっている 2. 仕方がないから適当にする 3. 時々さぼる 4. まったくしない

問14 体育祭、クラスマッチなどクラス全体で何か活動するとき、あなたはそれに対してどのような態度をとりますか。

1. 積極的に参加する 2. 一応参加する 3. 参加しない 4. わからない

問15 あなたは、学校にいる時間と学校外にいる時間とでは、どちらが楽しいことが多いですか。

1. 学校にいる時間 2. 学校外にいる時間

問16 あなたは、帰宅後や休日どのように過ごしていますか。多いものから3つえらんでください。

- 1位() 2位() 3位()
1. 家でなんとなくゴロゴロしている 2. 音楽(たとえばギターやレコード)を楽しむ 3. ラジオを聞く
4. テレビを見る 5. ゲームセンター 6. バイク 7. 友だちとおしゃべりをする 8. 読書
9. まんが 10. 学習塾や家庭教師 11. 勉強 12. スポーツを楽しむ 13. 友だちに電話する
14. 趣味 15. 図書館 16. その他()

問17 あなたは、中学卒業後、どうするつもりですか。

1. 進学(高校・高専)する 2. 各種学校・専修学校にすすむ 3. 就職する
4. 働きながら勉強を続ける(定時制高校など)

問18 あなたは、将来どんな職業につきたいですか。

()

問19 あなたのお父さんやお母さん(家族の人)は、あなたが将来どんな職業について欲しいと思っていますか。

()

問20 あなたの各教科別の成績は、どのくらいですか。該当するところに○をつけてください。

(例)	数	学	よい	非常に	や	中	や	非常に	わるい
				非	や	中	や	非	
				常	や	間	や	常	
				に				に	
1.	国	語	よい						わるい
2.	社	会	よい						わるい
3.	数	学	よい						わるい
4.	理	科	よい						わるい
5.	音	楽	よい						わるい
6.	美	術	よい						わるい
7.	技術・家庭		よい						わるい
8.	保健・体育		よい						わるい
9.	英	語	よい						わるい

問21. あなたは、「異性」に関心がありますか。

1. 非常にある 2. 少しある 3. あまりない 4. まったくない

問22 あなたは、どんなテレビ番組をよくみますか。2つえらんでください。

一番よくみる番組() 次によくみる番組()

1. ドラマ 2. 歌謡番組 3. マンガ・アニメーション 4. 映画 5. クイズ番組
6. お笑い番組(万才・落語など) 7. スポーツ 8. ワイドショー 9. ニュース・天気予報
10. 教養番組 11. その他() 12. みない

問23 あなたが、もっとも楽しいと感じるのはどんな時ですか。

問24. あなたは、どんな音楽が好きですか。2つえらんでください。

一番好きな音楽は() 次に好きな音楽は()

1. 歌謡曲 2. 演歌 3. ニューミュージック (フォークを含む) 4. ポピュラー音楽
5. 童謡 6. 民謡 7. クラシック音楽 8. フュージョン (シンセサイザーを含む)
9. ロック音楽 10. マンガ・アニメ主題歌 11. ジャズ 12. イージーリスニング
13. 映画音楽 14. ラテン・タンゴ 15. シンソウ・カンツォーネ 16. ニューウェーブ
17. ハワイアン 18. その他

問25. あなたは、仲のよい友人のグループをもっていますか。もっている場合それはあなたをふくめて、何人くらいのグループですか。

1. もっている 2. もっていない
 └────────────────────────────────── だいたい () 人くらい

問26. あなたの友人グループで、よく話題になるのは何ですか。もっともよく話題になるものを1つえらんで○をつけてください。

1. 勉強や成績のこと 2. 道路のこと 3. 家庭のできごと 4. 部活動やH・Rのこと
5. 社会問題 6. 趣味や遊び 7. 芸能やスポーツのこと 8. 服装や髪形
9. ラジオ・テレビ番組のこと 10. 雑誌やマンガのこと 11. 友人のこと 12. 異性のこと
13. 人生や生き方について 14. 特になし
15. その他()

問27. あなたは、自分のことを深く理解してくれ、心を打明けて話せる「親友」がいますか。

1. い る 2. いない

問28 あなたは、特定の異性の友人がいますか。

1. い る 2. いない

問29. あなたが、今もっとも悩んでいること、困っていることを1つえらんで○をつけてください。

1. 健康のこと 2. 容姿 3. 性格 4. 家庭・家族関係のこと 5. 道徳
6. 勉強・成績 7. クラス 8. 部活動 9. 友人 10. 恋愛・異性 11. 趣味
12. 特になし 13. その他()

問30. 困っていることや悩みを、あなたは誰に相談しますか。2つえらんでください。

もっとも相談する人は() 次に相談する人は()

1. 父 2. 母 3. 祖父 4. 祖母 5. 兄弟姉妹 6. 友人 7. 上級生・先輩
8. 先生 9. 誰にも相談しない 10. 相談する人がいない
11. その他()

問31. あなたは、学校の勉強でわからないところがありますか。

1. よくある 2. 時々ある 3. あまりない 4. まったくない

問32 あなたは、学校の勉強についてどう感じていますか。

1. とてもやる気がある 2. まあまあやる気がある 3. あまりやる気がない 4. まったくやる気がない

問33 あなたは、家庭生活に満足していますか。

1. 大変満足している 2. かなり満足している 3. あまり満足していない 4. まったく満足していない

問34 小学生の頃、あなたは、お父さんやお母さん(家)の手伝いをしていましたか。

1. よくしていた 2. 時々していた 3. あまりしなかった 4. まったくしなかった

問35 中学生になって、あなたは、お父さんやお母さん(家)の手伝いをしていますか。

1. よくする 2. 時々する 3. あまりしない 4. まったくしない

問36 あなたは、服装や髪型などファッションに関心がありますか。

1. 非常にある 2. 少しある 3. あまりない 4. まったくない

問37 あなたは、性について関心がありますか。

1. 非常にある 2. 少しある 3. あまりない 4. まったくない

問38 あなたは、「流行」を気にする方ですか。

1. とても気にする 2. 少し気にする 3. あまり気にしない 4. まったく気にしない

問39 あなたは、お父さんやお母さんとテレビのことやスポーツのことなどについて話すことがありますか。

お父さんと() お母さんと()

1. よくある 2. 時々ある 3. ほとんどない 4. まったくない 5. 父はいない 6. 母はいない

問40 あなたは、お父さんやお母さんと将来や人生のことについて話すことがありますか。(成人してどんな仕事につくか、どんな生き方をするかなど、受験以外のことで)

お父さんと() お母さんと()

1. よくある 2. 時々ある 3. ほとんどない 4. まったくない 5. 父はいない 6. 母はいない

問41 あなたは、お父さんやお母さんと学校生活のこと(例えば、授業のこと、クラブのこと、先生のこと、友だちのこと、学校行事のことなど)について話すことがありますか。

お父さんと() お母さんと()

1. よくある 2. 時々ある 3. ほとんどない 4. まったくない 5. 父はいない 6. 母はいない

問42 あなたは、お父さんやお母さんと、おもにどんなことについて話しますか。もっともよく話すことを1つずつあげてください。

お父さんと話すこと() お母さんと話すこと()

1. 将来のこと 2. 成績のこと 3. クラブや趣味のこと 4. 学校のできこと
5. 恋愛・男女交際のこと 6. 家庭のこと 7. 歌手・スター・スポーツのこと 8. 文学・思想・社会問題
9. ほとんど話さない 10. 父はいない 11. 母はいない

問43 あなたは、お父さんやお母さんのことをどう思っていますか。

お父さんは() お母さんは()

1. 大変信頼している 2. だいたい信頼している 3. あまり信頼していない 4. まったく信頼していない
5. 父はいない 6. 母はいない

問44 あなたのお父さんやお母さんが、学校の先生に対する不平・不満・批判を言うのを聞いたことがありますか。

1. よくある 2. 時々ある 3. ほとんどない 4. まったくない

問45 あなたにとって、お父さん、お母さんはどのような存在ですか。あてはまるものを1つずつえらんでください。

お父さんは() お母さんは()

1. 尊敬できる人 2. やさしく理解のある人 3. 友人のような親しみのもてる人
4. いろいろ教え指導してくれる人 5. たよりになる人 6. 暴力をふるう人 7. 自分勝手に無責任な人
8. 口うるさい人 9. 生活費をかせいでくれる人 10. いてもいなくてもいい人 11. 放任で甘い人
12. 父はいない 13. 母はいない 14. その他()

問46 あなたは、次のようなことをしたことがありますか。

	はい	いいえ
1. 親にだまって友だちの家などに泊まったことがある……	1	2
2. 無免許運転をしたことがある……	1	2
3. 万引きをしたことがある……	1	2
4. 先生をなぐったことがある……	1	2
5. 家出をしたことがある……	1	2
6. 暴走行為をしたことがある……	1	2
7. 学校の帰り道などに喫茶店に行ったことがある……	1	2
8. カンニングをしたことがある……	1	2
9. 学校の帰り道などゲームセンターに行ったことがある……	1	2
10. お父さんに暴力をふるったことがある……	1	2
11. お母さんに暴力をふるったことがある……	1	2

問47 あなたは、親にかくれて、お酒をのんだことがありますか。

1. 1回だけある 2. 数回ある 3. 毎日のんでいる 4. のんだことがない

問48 あなたは、たばこをすったことがありますか。

1. 1回だけある 2. 数回ある 3. 毎日すっている 4. すったことがない

問49 あなたは、お父さん、お母さんに暴力をふるいたいと思ったことがありますか。それはどういう場合ですか。()内に書いてください。

- お父さんに() (理由)
お母さんに() (理由)

1. よくある 2. 時々ある 3. ほとんどない 4. まったくない 5. 父はいない 6. 母はいない

問50 小学生の頃、親にきびしくしかられたり、注意されたりしたのはどのような場合ですか。それぞれ1つづつえらんでください。

- 何度もしかられたり注意されたこと()
とくにきびしくしかられたり注意されたこと()
1. 勉強や成績のこと 2. 友人のこと 3. 兄弟姉妹とのこと(ケンカなど) 4. 家業や家事の手伝い
5. 身だしなみ(服装) 6. 夜ふかし(朝ねぼう) 7. テレビのみすぎ 8. 食べものの好き嫌い
9. 間食やおやつなどのこと 10. むだ使いやお金のこと 11. いたずら 12. ことばづかい
13. その他()

問51 中学生になって、親にきびしくしかられたり、注意されたりするのはどのような場合ですか。それぞれ1つづつえらんでください。

- 何度もしかられたり注意されたこと()
とくにきびしくしかられたり注意されたこと()
1. 勉強や成績のこと 2. 友人のこと 3. 兄弟姉妹とのこと(ケンカなど) 4. 家業や家事の手伝い
5. 身だしなみ(服装) 6. 夜ふかし(朝ねぼう) 7. テレビのみすぎ 8. 食べものの好き嫌い
9. 間食やおやつなどのこと 10. むだ使いやお金のこと 11. いたずら 12. ことばづかい
13. その他()

問52 全体的にみて、お父さんやお母さんはあなたに対して甘いほうだと思いますか。

- お父さんは() お母さんは()

1. 大変甘いほうだと思う 2. だいたい甘いほうだと思う 3. あまり甘くないほうだと思う
4. きびしいほうだと思う 5. 父はいない 6. 母はいない

問53 あなたの父さんやお母さんは、あなたに性のこと(性教育)について教えたり、助言してくれたりしますか。

1. よくある 2. 時々ある 3. ほとんどない 4. まったくない

問54. あなたは、部活動(必修クラブは除く)をしていますか。している人は、そのクラブ名を書いてください。

1. している(

)部

2. していない

問55. あなたは、将来どういう人間になりたいですか、あるいはどのような生き方をしたいと思いますか。自由に書いてください。

(

協力ありがとうございました

お父さん、お母さん用の両方を1つの封筒に入れて提出してください。

お父さん用

(注：お母さん用についても同様の質問紙を使用している)

中学生のしつけについてのアンケート

名前を記入する必要はありません

◎ 記入の仕方についてのお願い

1. この調査用紙を持って帰られたお子さんについてお答えください。
2. このアンケートにはお父さんがお答えください。もしお父さんがお答えできないときは、ふだんお子さんに最もよく接しておられる方でお願いします。
3. 各質問に対するお答えは、回答項目のうち最もあてはまるものの番号(1. 2. 3.)などを○でかこんでお答えください。また()の中には番号や必要事項を記入してください。
4. 次の欄にお子さんの学年など御記入くださるようお願い致します。

お子さんの学年	お子さんの性別	お子さんのきょうだいの中での位置	御記入くださった方	御記入くださった方の年代
____年	1. 男	1. ひとりっ子	1. 父親 2. 祖母 3. 兄	1. 20代 2. 30代
	2. 女	2. ____人きょうだいの____番目	4. その他()	3. 40代 4. 50代
				5. 60代以上

問1. あなたは、今朝お子さんを起こしてやりましたか。

1. はい 2. いいえ 3. その他()

問2. あなたは、今朝お子さんのふとんをたたんだり、押入れにあげたり(ベッドの場合はあとしまつ)してやりましたか。

1. はい 2. いいえ 3. その他()

問3. あなたは、お子さんのテストのときなど一緒に起きていて夜食をつくってやったりすることがありますか。

1. よくある 2. 時々ある 3. ほとんどない 4. 全くない

問4. あなたは、お子さんの成績があがった場合、日頃欲しがっている物を買ってやったり、おこづかいをあげたりすることがありますか。

1. よくある 2. 時々ある 3. ほとんどない 4. 全くない

問5. あなたは、お子さんに1ヶ月平均どのくらいおこづかいを与えていますか。

1. 全く与えていない 2. 500円以下 3. 501～1,000円 4. 1,001円～1,500円
5. 1,501円～2,000円 6. 2,001円～2,500円 7. 2,501円～3,000円
8. 3,001円～3,500円 9. 3,501円以上()円

問6. あなたは、お子さんが月々のおこづかいの他に何かの理由(友だちと遊びに行くためとか何か欲しい物を買うため)で、お金を要求した場合、きいてやることがありますか。

1. よくある 2. 時々ある 3. ほとんどない 4. 全くない

問7. あなたは、お子さんがおこづかいをどのように使っているか知っていますか。

1. よく知っている 2. だいたい知っている 3. あまり知らない 4. 全く知らない

問8. あなたは、この1週間に比較的体を動かす手伝い(風呂を掃除したり、洗たくをしたり、ゴミを焼いたり、部屋を掃除したり、夕食をつくらたり)をお子さんに何回くらいさせましたか。

1. 全くさせていない 2. 1回 3. 2回 4. 3回 5. 4回 6. 5回 7. 6回以上

問9. あなたは、お子さんのあなたに対する言葉づかいが乱暴であったような場合、どのような対応をしていますか。

1. きびしくしかる 2. おだやかに注意する 3. 特に何も言わず聞き流す
4. その他()

問10. あなたは、お子さんの服装や髪型などが中学生らしくない場合、どのように対応していますか。

1. きびしくしかる 2. おだやかに注意する 3. 特に何も言わない
4. その他()

問11. あなたは、お子さんがひわいなことを言ったりした場合、どのように対応していますか。

1. きびしくしかる 2. おだやかに注意する 3. 特に何も言わず聞き流す
4. その他()

問12 あなたは、お子さんが他の人のことを考えず自分勝手なことを言ったり、行ったりした場合、どのように対応していますか。

1. きびしくしかる 2. おだやかに注意する 3. 特に何も言わない
4. その他()

問13. あなたは、お子さんがたいして理由もないのに口答えしたり、反抗的態度をとった場合、どのように対応していますか。

1. きびしくしかる。 2. おだやかに注意する 3. 特に何も言わない
4. その他()

問14. あなたは、お子さんが自分が使ったものの後始末をしなかった場合、どのように対応していますか。

1. きびしくしかる 2. おだやかに注意する 3. 子どもには何も言わず自分がしてやる 4. そのまま放っておく
5. その他()

問15. あなたは、お子さんとテレビのことや映画のことやスポーツのことなどについて話すことがありますか。

1. よくある 2. 時々ある 3. ほとんどない 4. 全くない

問16. あなたは、お子さんに性のことについて教えたり、指導したり、話したりすることがありますか。

1. よくある 2. 時々ある 3. ほとんどない 4. 全くない

問17. あなたは、お子さんと、お子さんの将来や人生について話すことがありますか。(成人してどんな仕事につくか、どんな生き方をするかなど、受験以外のことで)

1. よくある 2. 時々ある 3. ほとんどない 4. 全くない

問18 あなたは、お子さんと、学校生活のこと(例えば、授業のこと、クラブのこと、先生のこと、友だちのこと、学校行事のことなど)について話すことがありますか。

1. よくある 2. 時々ある 3. ほとんどない 4. 全くない

問19. あなたは、お子さんがあなた やお母さんや目上の人に対して、友だちに言うのと同じような乱暴な言い方をした場合正しい言い方を教えて
やることはありますか

1. よくある 2. 時々ある 3. ほとんどない 4. 全くない

問20. あなたは、お子さんに何か家庭のこと（お子さん自身のことを除く）で意見を聞いたり、相談したりすることがありますか。

1. よくある 2. 時々ある 3. ほとんどない 4. 全くない

問21. あなたのご家庭では、夕食を家族そろって食べていますか。

1. いつも家族そろって食べている 2. 時々誰か欠けることもあるがだいたいそろって食べている
3. 家族が全員そろって食べることはあまりない 4. 全くない

問22 あなたのご家庭では、夕食のときテレビを見ながら食事をすることがありますか。

1. よくある 2. 時々ある 3. ほとんどない 4. 全くない

問23 あなたは、お子さんの交友関係について知っていますか。

1. よく知っている 2. だいたい知っている 3. あまり知らない 4. 全く知らない

問24. あなたは、現在お子さんについて困っていること、悩んでいることがありますか。あるとすればその内容は何ですか。次のうちあてはまるものすべてを○でかこんでください。なお困っていないことや悩みのない方は、最後の「ない」の記号に○をつけてください。

1. 成績・進学のこと 2. 身体の成長のこと 3. 家族への反抗・暴言・暴行等

4. 非行（盗み・シンナー・暴走・喫煙など） 5. 不純異性交遊などの異性問題 6. 学校に行きたがらない
7. （親からみて）悪い友だちとつきあっている 8. 生活がだらしく、やる気がない
9. 服装、髪型、言葉づかいなどがみだれている 10. 子どもと話すきっかけが見出せず悩んでいる
11. その他（ ） 12. ない
- 問25. あなたは、お子さんの学校の成績がどのくらいだと思いますか。
1. 上 2. 中の上 3. 中の中 4. 中の下 5. 下
- 問26. あなたは、お子さんの成績に最も影響するのは次のどれだと思いますか。1つ選んでください。
1. 先生の教え方や人柄 2. あなた自身の育て方 3. お子さんの友だち 4. 本人の能力
5. 本人の努力 6. 校風 7. 地域の環境 8. 塾や家庭教師
9. その他（ ）
- 問27. あなたは、お子さんに対して腹が立ちなぐりたいと思うことがありますか。
1. よくある 2. 時々ある 3. ほとんどない 4. 全くない
- 問①あると答えられた方で、それは主にどのような場合ですか。
- （ ）
- 問28. あなたは、お子さんが何を考えているのか、その気持ちがわからずとまどうことがありますか。
1. よくある 2. 時々ある 3. ほとんどない 4. 全くない
- 問29. あなたは、お子さんにはれものにさわるような気持ちで接することがありますか。
1. よくある 2. 時々ある 3. ほとんどない 4. 全くない
- 問30. あなたは、平均してテレビを1日どのくらい見ていますか。
1. 全く見ていない 2. 30分程度 3. 1時間 4. 1時間半 5. 2時間 6. 2時間半
7. 3時間 8. 3時間半 9. 4時間 10. 4時間半 11. 5時間 12. 5時間以上
- 問31. あなたは、毎日規則正しい生活をおくっていますか。
1. 非常に規則正しい生活をしている 2. だいたい規則正しい生活をしている
3. あまり規則正しい生活ではない 4. 全く不規則な生活である
- 問32. あなたは、毎日の生活に充実感がありますか。
1. 非常にある 2. まあまあある 3. あまりない 4. 全くない
- 問33. あなたの生きがいの対象は何ですか。
1. 妻 2. 子ども 3. 自分の趣味 4. 家事 5. 仕事
6. その他（ ） 7. 生きがいはない
- 問34. あなたの奥さんはあなたに、学校や先生についての不平・不満や批判を言ったりすることがありますか。
1. よくある 2. 時々ある 3. ほとんどない 4. 全くない
- 問35. あなたは、お子さんは自主性があると思いますか。
1. 大いにあると思う 2. だいたいあると思う 3. あまりないと思う 4. 全くないと思う
- 問36. あなたは、お子さんは忍耐力（我慢強さ）があると思いますか。
1. 大いにあると思う 2. だいたいあると思う 3. あまりないと思う 4. 全くないと思う
- 問37. あなたは、お子さんのしつけについて自信がありますか。
1. 大いに自信がある 2. だいたいある 3. あまり自信がない 4. 全く自信がない
- 問38. あなたは、お子さんのしつけについて甘いほうだと思いますか。
1. 大変甘いほうだと思う 2. だいたい甘いほうだと思う 3. あまり甘くないほうだと思う
4. きびしいほうだと思う

問39. あなたは、お子さんの世話をよくしているほうだと思いますか。

1. 大変よくしているほうだと思う 2. だいたいしているほうだと思う 3. あまりしていないほうだと思う
4. ほとんどしていない

問40. あなたは、お子さんからどのように思われていると思いますか。

1. 大変信頼されていると思う 2. だいたい信頼されていると思う 3. あまり信頼されていないと思う
4. 全く信頼されていないと思う

問41. あなたは、将来お子さんにどのような人間になってもらいたい、あるいはどのような生き方をしてもらいたいと思いますか。自由に書いてください。

()

御協力ありがとうございました

調 査 協 力 校 名

(順 不 同)

市 町 村 名	学 校 名
穂 波 町	穂 波 東 中 学 校
宗 像 市	日 の 里 中 学 校
星 野 村	星 野 中 学 校
三 潑 町	三 潑 中 学 校
福 岡 市	那 珂 中 学 校
北 九 州 市	菅 生 中 学 校